

平成 29 年度

日本財団助成

発達障害支援スーパーアドバイザー養成研修

事業実施報告書

平成 30 年 11 月

一般社団法人 日本自閉症協会
全日本自閉症支援者協会

目 次

巻頭言

全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐 康郎	1
1. 集合研修スケジュール	5
2. 実務研修報告	
□(社福)侑愛会 星が丘寮	8
□(社福)はるにれの里 札幌市自閉症者自立支援センター ゆい	10
□(社福)梅の里 障害者支援施設 あいの家	12
□(社福)けやきの郷 初雁の家	14
□(社福)菜の花会 障害者支援施設 しもふさ学園	16
□(社福)嬉泉 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦	18
□(社福)正夢の会 昭島生活実習所	20
□(社福)横浜やまびこの里 東やまたレジデンス	22
□(社福)川崎市社会福祉事業団 障害福祉サービス事業 川崎市くさぶえの家	24
□(社福)めひの野園 障害者支援施設 うさか寮	26
□(社福)檜の里 自閉症総合援助センター あさけ学園	28
□(社福)つくしの会 障害者支援(自閉症者療育)施設 はぎの郷	30
□(社福)北摂杉の子会 萩の杜	32
□(社福)あかりの家 障害者支援施設 あかりの家	34
□(社福)三気の会 障がい者支援施設 三気の里	36
□(社福)萌葱の郷 自閉症総合援助センター めぶき園	38
3. アンケート集計結果	40
4. 修了者名簿	63

巻 頭 言



全日本自閉症支援者協会
副会長 五十嵐 康郎

一般社団法人日本自閉症協会、一般社団法人全日本自閉症支援者協会が主催し、一般社団法人日本発達障害ネットワーク、日本自閉症スペクトラム学会、発達障害者支援センター全国連絡協議会の後援・協力による平成29年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修（日本財団助成事業）を完了しましたので報告いたします。

1. 目的

日本では教育や福祉の現場でのスーパービジョンがなおざりにされ、理解不足や間違った支援の結果、二次障害や虐待が生じることが少なくありません。そのため、発達障害児・者への支援を行う関係諸機関や団体の3年以上の実務経験者を対象に、第一人者による講義と全日本自閉症支援者協会加盟法人での実務研修、さらには当事者の方々への支援や事例研究を通して関係機関・団体及び地域の核となるスーパーバイザーを養成し、全国どこでも質の高い支援が得られるとともに、関係機関の連携が深まることで、発達障害児・者に豊かな暮らしを保障し、人としての生きがいと喜びが持てる社会の実現をめざします。

2. 先行事例（大分県発達障がい支援専門員養成研修）の紹介

私が自閉症に出会った、半世紀前と違い、現在は自閉症や発達障害に関する多くの本が書店に並び、セミナーや講演会も数多く行われるようになりました。しかし、発達障害のある人が学校や職場で不適応をおこしたり、虐待の被害者になる事件が後を絶ちません。その原因は、スーパーバイザーが極めて少ないことにあります。

大分県では、発達障がい支援専門員養成研修として、スーパーバイザー養成に取り組んで、13年目を迎え、修了者が242名となりました。修了者の出身母体は、福祉関係者（108名）、教育関係者（51名）、保育・幼稚園関係者（31名）、医療関係者（7名）、行政関係者（6名）、労働関係者（6名）、その他（33名）と

発達障害に関わるほぼ全ての機関を網羅し、修了者が発達障がい支援専門員の会（通称・SVの会）を結成し、生涯研修に取り組むとともに、圏域毎に支部を作り、圏域内の関係機関に支援専門員を派遣するスーパーバイザー派遣事業（市町村事業）を実施しています。他に自閉症啓発デーの相談会、発達障がい支援専門員養成研修や県内の発達障害に関する研修会等の運営にも参画しています。

特筆すべきは、全国的に発達障害者支援センターに寄せられる相談件数が年々増え続けていますが、発達障害者支援センター職員が直接相談に応じられる件数にはおのずと限界があります。圏域で支援専門員が迅速に相談に応じることができることで、発達障害者支援センターは個別相談や個別療育、就労支援等の直接支援や普及啓発等の業務の他に支援専門員養成研修を始めとする人材育成、困難事例への対応や支援専門員のバックアップを行うことで支援の充実を図ることができます。

講師は主に発達障がい者支援センター連絡協議会のメンバーであることから、謝礼は薄謝程度、実務研修は社会貢献の一環として無償で行っていますので、運営経費は30,000円の受講料のみでまかなっています。発達障害者支援センター職員を増員することと比較して、極めてコストパフォーマンスが高いと言えます。

養護学校(当時)等での不適切な対応が原因で、不登校、家庭内暴力に至り、精神病院入院を余儀なくされた事例や他の障害者支援施設等で激しい行動障害のために不適応となってめぶき園に寄せられる相談ケースが毎年1～3件ありましたが、関係各機関、圏域に発達障害支援専門員が誕生したことで、ここ数年はそうした相談ケースが大幅に減少するとともに、不適切な支援や虐待を防止することにも大きく寄与しています。

発達障害支援専門員が、共に学び、幅広い関係機関に養成されることから、関係機関の壁を越えて連携が深まり、保育園・幼稚園から就学へとスムーズに繋がったり、個別支援会議で専門員が出会うことで、個別ケースへの共通理解が深まったり、保育園や幼稚園に支援専門員がいることや、市町村の健診等に支援専門員がスタッフとして参加することで、早期発見と早期療育に繋がっています。

大分県では、毎年、30名程度の支援専門員が誕生することで、発達障害理解と保育、教育、福祉、就労、地域生活等の全ての分野で飛躍的に質の向上が図られ、発達障害のある人の豊かな育ちや暮らしの実現に繋がっています。

3. 事業の概要

前期・後期集合研修各3日間（合計6日間）の集合研修と一般社団法人全日本自閉症支援者協会加盟法人の中から16法人を指定し、2法人を選択して4～5日

間（合計8～10日間）の実務研修を受け、当事者団体への支援を経験し、全ての研修報告を提出した者にスーパーバイザー養成研修修了証を交付します。

1年間で20日間程度の研修に参加し、20本以上の報告書の提出を義務付け、かなりハードな研修になっていることから、4年間に355名が受講し、205名が修了しました。

集合研修は当事者、親、行政マン、実践家、研究者、医師等幅広い立場の講師から、様々な視点、理念、実践、方法論を前期・後期、合わせて15コマの講義と演習を行いました。実務研修は各法人の特色を生かして、講義、視察、実地研修を行いました。さらに今年度は修了者を対象にフォローアップ研修を実施し、41名の受講申し込みがありました。

4. 事業の評価

全ての集合研修の講義と実務研修に対して、受講者の高い評価を得ることができました。研修全体を通しての記述には「あらゆるジャンルのトップレベルの方の講義を聞いて、大変学びました。世界が広がりました」「支援者間のネットワークが大きな財産となりました」「ぜひ、医療、教育、司法、企業、行政も含めた研修にしてください」「集合研修だけでなく、実務研修や当事者支援をすることにより、さらに学びが深まったと思います」「とても内容の濃い研修だと思います。講義6日間、実習2週間と厳しいですが、それに値する十分なものが得られたと思います」「この研修のおかげで、もっと勉強したい!!という気持ちが生まれています。おかげさまで私の転機となりました」等の声がありました。

また実務研修受入法人からも「新たな発見、学びがあり、職員の意識が向上しました」「研修生と受け入れ側職員が相互に学び、成長につながりました」「沢山の課題と貴重な財産を頂きました」等の感想が寄せられました。本養成研修が発達障害理解、支援の質向上と関係機関連携の決定打となりうることを再確認しました。

5. 考察（真のスーパーバイザーを養成する）

自称スーパーバイザーや、各種団体等がその団体の提唱する理論や技法に習熟することで、スーパーバイザーとして認定することは行われていますが、その理論や技法に関してのスーパーバイザーになりえたとしても、実践の場は、場面や環境、関係性が異なり、常に変化し続け、一度として同じ場面がなく、万能に機能することは難しく、実践の場で柔軟かつ、的確・有効に機能しうるスーパーバイザーはどのようにして育つ、あるいは育てることができるかを論じます。

まずは先人たちの実践の歴史に学ぶことも多く、イタールの「アビロンの野生児」セガンの「生理学的教育」、モンテッソリー教育、日本では、戦前は日本初の知的障害児施設（教育）滝乃川学園創立者の石井亮一の取り組みがあります。戦後は近江学園やびわこ学園、一麦寮、信楽青年寮を創設した糸賀一雄、田村一二、池田太郎等の今日も色あせることのない先進的な取組があります。

1943年にレオ・カナーによる「情緒的交流の自閉的障害」と題する初の症例報告がなされ、1944年には、ハンス・アスペルガーが「自閉的精神病質」としてアスペルガー症候群を紹介しました。当初、自閉症は分裂病（当時）の最早発型と考えられ、ベッテルハイムの著書「うつろな砦」等から、冷蔵庫マザーと呼ばれるなど、母親の養育態度が原因だと考えられたこともありました。

心理療法、カウンセリング、遊戯療法等によるアプローチが試みられ、一部に改善例も見られましたが、ラターの言語認知障害説以降、脳の機能障害と考えられるようになりました。私が若かった頃に自閉症の原因論や治療法を学ぶことは、不謹慎かもしれませんが、推理小説を読み解くような、わくわく感があつたことを記憶しています。現代から見ると仮に間違いがあつたとしても、それらの学びも無駄ではなかったと思っています。

その後、感覚統合、行動療法、受容的交流療法、応用行動分析、TEACCHプログラム等、発達障害に関する療育理論や技法、ノーマライゼーションや合理的配慮等の基本理念、障害者基本法や発達障害者支援法等の諸制度、さらには脳科学や神経生理学の進歩等々、発達障害に関連する学ぶべき分野は極めて広く、それを単なる知識に留めるのではなく、実践の中で検証し、血肉化する必要があります。先人たちの知見を学ばずしてスーパーバイザーとはなりえません。

実践の場面は、常に変化し、個別性が求められることから、理論や技法に基づいて、マニュアル化することは適切ではありません。理論や知識だけで、実情に即したスーパービジョンはできませんが、経験だけでも、場面や個別性に即したスーパービジョンはできません。マニュアルや知識、経験は役立ちますが、そのまま現場に当てはめることは適切ではありません。

現場に身を置き、どのような姿勢や想いをもって支援者として関わり（ハート）、理論、技法、諸制度、医療（サイエンス）さらには、直接関わりがないと思われる歴史、哲学、政治、経済、時に宗教等幅広く学び、教養を身につけることで場面に応じて自在に対応し得る力や感性（アート）が身につきます。

スーパーバイザーは、理論や技法の新旧や優劣を論じるのではなく、自らが無知であることを自覚し、自身の知識や経験と違うものにも学び、自らの実践を検証し、常に進化し続けなければなりません。

平成29年度
発達障害支援スーパーバイザー養成研修(前期集合研修)

＜日 程 表＞

＜会 場＞ 日本財団大会議室 (東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル)
(TEL) 03-6229-5111(日本財団コールセンター)

＜日 時＞ 平成29年7月25日(火) ～ 7月27日(木)
12:30 ～ 受付 / 13:00 ～ 開始

研修日	研修内容	講 師
7月25日(火)	開講式 13:00 ～ 13:40	
	『発達障害の特性理解』 13:50～15:20	一般社団法人 日本自閉症協会 会長 市川 宏伸 氏
	対談 『特別支援教育の課題と展望』 15:30～17:00	文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中 裕一 氏 日本自閉症スペクトラム学会 事務局長 寺山 千代子 氏
	交流会 17:30 ～ 19:30	
7月26日(水)	対談 『発達障害福祉行政の展望』 9:30～11:00	厚生労働省 障害福祉課障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏 全日本自閉症支援者協会 会長 松上 利男 氏
	『対人援助の基礎となるもの』 11:10～12:40	全日本自閉症支援者協会 副会長 五十嵐 康郎 氏
	『親として専門家に期待すること』 13:50～15:20	一般社団法人 日本自閉症協会 副会長 今井 忠 氏
	『当事者からのメッセージ』 15:30～17:00	発達障害当事者会 イトコサガン 代表 冠地 情 氏
7月27日(木)	『発達障害支援の現状と課題』 9:30～10:30	発達障害者支援センター全国連絡協議会 副会長 和田 康宏 氏
	『自閉症の動作法』 10:40～12:10	国立大学法人 愛知教育大学 教授 森崎 博志 氏
	終了式(講評) 12:10 ～ 12:30	

平成29年度
発達障害支援スーパーバイザー養成研修(後期集合研修)

＜日 程 表＞

＜会 場＞ 日本財団大会議室 (東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル)
(TEL) 03-6229-5111(日本財団コールセンター)

＜日 時＞ 平成30年3月13日(火) ～ 3月15日(木)
12時30分 ～ 受付 / 13時00分 ～ 開始

研修日	研修内容	講師
3月13日(火)	開講式 13:00 ～ 13:30	
	『行動問題についての応用行動分析』 13:40～15:10	鳥取大学大学院 医学系研究科 臨床心理学講座 教授 井上 雅彦 氏
	『TEACCH アプローチの統合的な考え方:構造化による支援のパラドックス』 15:20～17:20	前フェイエットビル TEACCH センター長 スティーブ・クルーパ 氏 訳者 田中 恭子 氏
	交流会 17:30 ～ 19:30(8F 食堂)	
3月14日(水)	『発達障害を巡る諸問題』 ～DSM-5における神経発達障害 群を中心に～ 9:30～11:00	医療法人 弘徳会 愛光病院 顧問 山崎 晃資 氏
	『発達障害の就労支援』 ～発達障害者の就労上の課題と具体的 な支援～ 11:10～12:40	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授 梅永 雄二 氏
	『アセスメントの力を高めるためのス ーパーバイザーの役割と事例検討の進 め方』 13:40～17:40	大正大学 心理社会学部 臨床心理学科 教授 近藤 直司 氏
3月15日(木)	『発達障害のある子どもの子育てと大 人になった今』 9:30～11:00	一般社団法人 日本発達障害ネットワーク 事務局長 橋口 亜希子 氏
	『スーパーバイザーに求められるスタ ンス』 11:10～12:10	発達障害支援スーパーバイザーの会 会長 五十嵐 猛 氏
	修了式(講評) 12:10 ～ 12:30	

発達障害支援スーパーバイザー養成研修(日本財団助成)
スーパーバイザー資格認定(アドバンスコース)集合研修

<日 程 表>

<会 場> 日本財団大会議室(東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル)
☎03-6229-5111(日本財団コールセンター)

<日 時> 平成30年3月13日(火) ~ 3月14日(水)
13時00分 ~ 受付 / 13時20分 ~ 開始

研修日	研修内容	講師
3月13日(火)	開講式 13:20 ~ 13:40	
	『事例に基づくスーパービジョン』 13:40~17:00	山梨英和大学 人間文化学部 人間文化学科 人間文化研究科 副学長 小林 真理子 氏
	交流会 17:30 ~ 19:30(8F 食堂)	
3月14日(水)	『発達障害者の意思決定支援』 9:30~11:00	上智大学 総合人間科学部 社会福祉学科 教授 大塚 晃 氏
	『発達障害がある子への支援』 11:15~12:45	NPO法人 自閉症 e サービス 代表 中山 清司 氏
	シンポジウム 『発達障害支援スーパーバイザーに 求められるもの』 13:30~16:00	コーディネーター 全日本自閉症支援者協会 会長 松上 利男 氏 厚生労働省障害福祉課 発達障害専門官 日詰 正文 氏 日本発達障害ネットワーク 事務局長 橋口 亜希子 氏 全日本自閉症支援者協会 広報委員長 五十嵐 猛 氏

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 侑愛会
星が丘寮 中野 伊知郎

1. 実務研修の概要

社会福祉法人 侑愛会では、第1回目を平成29年11月27日から12月1日まで、第2回目を平成29年12月11日から12月15日までの、各5日間、2回にわたり実務研修を実施している。参加者の職種は多岐にわたっており、障害者支援施設の支援員やサービス管理責任者や管理者、発達障害者支援センターのコーディネーターなどであった。また、経験年数も幅広く4年から20年の職員である。

1回目の参加者は6名、2回目の参加者は6名の計12名が参加している。

2. 実務研修検討会の開催

実務研修を引き受けるにあたり、研修日程の調整やプログラム内容の検討を行うために、主要な事業所が集まり検討会議を開催している。

検討会議で話し合われた内容をもとにして、研修内容の決定がされた。その内容は侑愛会の特色を生かしたものにすることとし、発達障害の方々に対する、幼児期から青年期・成人期そして老年期までの支援体制を見ていただきながら、各ライフステージに応じた取り組みを通して、一貫した包括的な支援が継続的に行われていくことの重要性を伝えることと、TEACHプログラムの構造化のアイデアを応用した取り組みが、どのように実践の中で生かされているのかということ伝える内容としている。今回、新たにグループワークとして利用者に協力してもらい、アセスメントから実際の支援を考えてもらい実践をする機会を設けている。

平成29年度 SV実務研修

曜日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
12月11日(月)					受付		あおいそら(発達障害者支援センター) 「オリエンテーション」 「自閉症の障害特性とアセスメント」 「発達障害者支援センターの役割」		ホテルへ送り	
12月12日(火)	概要説明 評価の説明 つくしんぼ学級	つくしんぼ学級での実習 実際に子供たちと関わってもらいながら評価を行う		休憩		グループワーク 「評価を基にしたグループワーク」	講義「児童発達障害者支援センターの取り組み」		ホテルへ送り	
12月13日(水)	概要説明と施設の見学 WSほくと	WSほくと実習 評価方法の説明		休憩		WSほくと実習 VTRを基に実際の評価を行う	グループワーク 「評価を基にしたGW」 講義「成人就労支援」		ホテルへ送り	
12月14日(木)	概要説明と施設の見学 星が丘寮 ねお・はろう	講義「強度行動障害者支援」 ケースを基にしたGW		休憩		講義「生活支援・」日中活動支援」 施設見学を交え、意見交換	星が丘寮での実習 実際の生活場面を見てもらいながら、意見交換を実施		ホテルへ送り	実務研修の総括・意見交換会の実施
12月15日(金)		障害児入所施設(おしま学園)・特別支援学校(分校)の見学を行います		休憩	面館駅まで送迎					

* あおいそら:オリエンテーションの中で、法人概要を説明するとともに、自閉症の障害特性およびアセスメントの基本を習得してもらう

* つくしんぼ学級: インフォーマルな評価を中心に、療育の中でアセスメントを行ってもらう

* ワークセンターほくと: TTAPをもとにしたフォーマルな評価を中心に、生活支援、日中活動支援のアセスメントを行ってもらう

* おしま学園・分譲: 児童入所施設と特別支援学校の実践を見学してもらう

3. 研修プログラムについて

1日目：発達障害者支援センターにて、侑愛会の概要と北海道における発達障害者支援センターの役割について説明している。また、実践研修を進めていく時の基礎となる、自閉症を中核とする発達障害の特性について説明を行い、今回の研修の大きな目的である「アセスメント」の重要性とその考え方をについてレクチャーしている。

2日目：児童発達支援センターにて、自閉症児に対する療育を中心に実習を行っている。「つくしんぼ学級」の概要の中では、自閉症を中核とした発達障害児が多く利用していることを説明している。

実践研修では、実際に子供たちと関わってもらいながら、「コミュニケーションサンプル」をとり、それぞれの評価を持ち寄って、分析・検証を行っている。それらの分析をもとに、今後、想定される目標設定について、職員と意見交換を行っている。

3日目：通所事業所にて、自閉症者の成人期における日中活動の様子を見てもらいながら、働くことに対する評価「TTAP」を用いて、アセスメントの方法について意見交換を行っている。また、実際に利用者に協力してもらい、アセスメントから実際の取り組みまでグループワークを行い、実践してもらっている。

4日目：入所施設にて、「強度行動障害」に対するアプローチの考え方や、実際のケースをもとにした事例検討を行っている。その中で、それぞれの意見交換を行い、チームアプローチの重要性について説明している。また、構造化のアイデアをどのように生活や日中活動、社会活動に生かされているのかをビデオなどを見ながら、意見交換を行っている。その後、実際の生活寮で利用者のアセスメントを行っている。

5日目：児童入所施設と特別支援学校の見学を通して、学童期における自閉症教育・療育の実際を見てもらい、意見交換を行っている。

4. まとめ

今回、5日間の実務研修を受けるにあたり、どのようなプログラムが提供できるのか？正直不安な点があった。それは、確立された支援ではなく、個別支援の視点に立ったアプローチが必要であり、そのためには、一人ひとりの特性を知ることからスタートしなければならないからである。今回は、実際の利用者に協力してもらい、買い物支援について実践してもらっているが、そこからアセスメントの重要性と構造化の基本を学んでもらうことを期待して実行している。

今回の研修は、アセスメントを中心に内容を組み立て、利用者の方々の特性を知ってもらいながら、「根拠のある支援」を組み立てていくためのヒントとなるような内容として実行した。

今回の研修の効果については、それぞれが持ち帰り、実際に活用していく中で、実践に結びつけることを実感してもらい、そのことがきっかけとなり多くの人が正しい理解のもと、療育・支援が行われることによって自閉症の方の生活の質が向上するような取り組みに結びつけてもらえることを期待している。

平成 29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人はるにれの里 中村 修一

1. 研修者の受け入れについて

- 平成 29年 9月 26日(火)～29日(金) 5名
- 平成 29年 10月 17日(火)～20日(金) 6名

2. 実務研修日程

曜 日	10:00		12:00	13:30		15:00		16:00	17:00
火曜日				受付・開講式・オリエンテーション		講義:「法人概要」「ゆいの役割」「札幌市発達支援センターの役割」		館内見学 意見交換	
水曜日	オリエンテーション	臨床実習 強度行動障がいを抱える方の地域移行	休憩		臨床実習 強度行動障がい者の日中活動 放課後等デイサービスでの活動			意見交換	
木曜日	オリエンテーション	臨床実習 共同生活介護・生活介護見学	休憩		臨床実習 就労継続AB事業・就労移行事業見学			閉講式・意見交換	
金曜日	オリエンテーション	講義「個別支援計画と地域移行」			グループホーム事例検討会 参加				

3. 実務研修のあらまし

- 発達障がいという幅広い概念の方々を支援する研修ということで、入所施設で行われている支援(強度行動障がい者の支援)のみの研修にならないような実習の内容の作成。
- はるにれの里の事業理念と法人の自閉症・発達障がいの方への支援の考え方についても情報提供をおこなう。
- 法人の人材育成等の説明や実際に法人内研修に参加していただいた。
- 全国からさまざまな職種・立場の方々が参加されるため、実務研修の内容ごとに意見交換などできるように心掛けた。

4. 実務研修の内容

- 1日目:法人の概要として法人の苦悩の時代から現在の支援の考え方や課題などの説明と、どんなに重たい障がいがあっても地域で普通の暮らしを支えるという法人理念の実践機関として、札幌市自閉症者自立支援センターゆい(以下ゆい)の機能の説明と見学を行った。
また、札幌市自閉症・発達支援センターおがるの取り組みと抱えている課題などについて情報交換を行う。

- 2日目:午前中は「行動障がいの方々を地域で支える」というテーマで、法人の共同生活援助事業所の支える仕組みと課題について説明を行い、地域支援スタッフからグループホームでの日々の取り組みケースを紹介した。

午後は、ゆいと法人の生活介護事業所。放課後等デイサービス事業所に分かれて現場に入っのての実習を行っている。実際の利用者の様子や職員の動きを見ていただいた。



- 3日目:法人内の事業所見学を1日かけて実施した。

児童発達支援センター、高齢期の方が利用しているグループホームや入所施設、知的に重度の自閉症の方が多く利用する生活介護、知的に障がいのない方の利用が多い就労移行など、事業展開が多岐に渡っていることや、石狩市と札幌市に事業エリアがまたがっているため移動に時間もかかったが、法人全体の取り組みを見ていただくには必要なプログラムの一つであった。



- 4日目:法人の人材育成の基盤となる法人内研修は、年間月1～2回ぐらいのペースで業務後の夜間帯に行われているが、グループホームや居宅介護事業所など夜間帯に業務しているグループホーム職員のための研修を日中の時間帯を使って年4回実施している。そのグループホーム職員研修に参加してもらおう。

5. 受け入れを通して

例年はるにれの里のプログラムは、もう少し現場の時間を入れてほしいという感想が多くあったが、色々なことをお伝えしたいと考えたと講義や見学などのスケジュールも、タイトなものになってしまい今年度も多くの時間を取ることが出来なかった。

例年思っていることではあるが、強度行動障害を抱える方の支援については、強度行動障害支援者養成研修があるため、このスーパーバイザー研修では、発達障がいという幅広い中で、支援のスキルよりも、どのような理念に立って事業に取り組んでいくかを伝えられるような内容にできればとも考えている。

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 梅の里
 障害者支援施設 あいの家
 管理者 佐藤 和幸

1. 実務期間、人数

- ①平成29年 8月21日(月)～26日(金) 2名
- ②平成29年 9月25日(月)～29日(金) 3名
- ③平成29年10月23日(月)～27日(金) 2名

2. 実務研修プログラム

曜 日	9:00	12:00	13:00	16:00	17:00	
月曜日				受付	開講式、オリエンテーション 全体見学、講義	まとめ 意見交換
火曜日	打合 わせ	臨床実習 日中活動支援	休憩	臨床実習 日中活動支援	短期入所 生活支援	まとめ 意見交換
水曜日	打合 わせ	臨床実習 日中活動支援	休憩	講義 「療育と余暇支援」	短期入所 生活支援	まとめ 意見交換
木曜日	打合 わせ	臨床実習 日中活動支援	休憩	臨床実習 日中活動支援	短期入所 生活支援	まとめ 意見交換
金曜日	打合 わせ	講義「発達障害者支援 センターの機能及び現状」	閉講式・まとめ 意見交換			

3. 研修プログラムの軸

- ・自閉症を有する方々への支援に於いて、個人特性の共通理解・統一对応の必要性の理解と対応者の意識の向上
- ・利用者様個々の特性の理解と、それに沿った余暇支援活動の紹介。～事例紹介～
- ・利用者様個々の特性に配慮した日中活動支援の紹介。
- ・強度行動障害を有する方々の短期入所支援の取り組み状況の紹介。

4. 臨床実習

- ・屋内・外日中活動(生活介護 = 農耕班・ロウソク班・手工芸班等)に所属して頂き、各グループの利用者様個々の特性に合わせた取り組み・対応等を見て頂いた。また、実践を通して、作業設定・工程理解の工夫等を紹介させて頂いた。

- ・生活支援に於いては、利用者支援を見て頂き、日々、利用者様の構成が変わる中での、個々に合わせた対応・環境設定等の統一化・周知の手法等を見て頂いた。

5. 研修を終えて ～参加者の声～

<意見交換時のご意見内容から抜粋>

- ・構造化・TEACCH 等だけに特化せず、職員・利用者様間の信頼関係の中での、理解・共有のようなものが多く伺えた。
- ・各生活介護グループに於いて、個々の特性に合わせた的確な、設定・対応・準備等が多く見られた。
- ・固執(こだわり)に対する対応の柔軟性が見受けられた。
- ・固執(こだわり)に対して、利用者様当人にとって、必要とされるものへの容認、そうでない事象に対する軽減検討と、相補の必要性を感じた。
- ・利用者様対応に於いての、情報の共有・統一对応・周知の徹底の重要性を再認識した。
- ・利用者様の「できること」・「楽しめること」・「安心できる場所」の提供の大切さを学んだ。
- ・「してほしくない行為」に関しての対応で、その行為の対象等を過剰に意識させない対応も有る事を学んだ。

6. まとめ

研修者様を受け入れ、様々なご意見・ご質問等を頂く事で、当法人職員も利用者様対応の再確認・新たな発見・今後の取り組みの参考・研修者様からの学び等があり、共々、新鮮さを感じることができたのではないかと思います。利用者様対応に当たる職員の意識も向上し、意義のある研修受け入れであったと思われまます。

今後とも、研修を受け入れるに当たり、研修期間はもとより、研修後も、連携・コミュニケーションを深め、相互に研鑽出来るようにすることで、より一層、意義のあるものとなっていくのではないかと思います。

スーパーバイザー的位置付けが、必ず中核となる場面が出て来ることは必須かと思われまます。様々な視点からの考察を行い、吸収し、実践に繋げていくことで、利用者様の生活の質の向上が、必ずや達成できるものと感じております。

今後のご活躍をご期待しております。

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人けやきの郷
初雁の家 水野 努

1. 研修概要

平成 28 年度の SV 研修の実務研修として、「けやきの郷」では、3回の研修会を実施致しました（計 16 名の受入れ）。

- 第1回目…平成 28 年 10 月 3 日～10 月 7 日 受け入れ人数 5 名
- 第2回目…平成 28 年 11 月 14 日～11 月 18 日 受け入れ人数 6 名
- 第3回目…平成 28 年 12 月 5 日～12 月 9 日 受け入れ人数 5 名

2. 「けやきの郷」における研修目的として

発達障害スーパーバイザー養成研修(実務研修)につきましては、研修生の方々にとって「自閉症者支援の実際(現場)」から学ぶことができる貴重な機会として捉えております。また、「けやきの郷」におきましても、研修生の方々との情報交換や意見交換を通じながら、受け入れ側となる職員自身に対しても研修の機会となる貴重な場として捉えております。その為にも、研修内容につきましては、講義形式と臨床実習を組み合わせ、各事業所の取り組み、利用者支援の在り方などについて、研修生の皆様に直接感じていただける機会になることを目的に構成しております。

この実務研修を実施するにあたり、「けやきの郷」としては、以下の 2 点について、重視しております。

①「けやきの郷の理念の実践」

「けやきの郷」には、「働くことを生活の中心に据えて、どんなに障がいが高くてもその人なりの自立をめざす」「障がいの重い人も軽い人も共に支え合って自立していく」など、幾つかの理念があります。その理念を基にして、「障がいのある方々の社会参加を目指す」「地域の中に活躍の場を作り、地域での生活を目指す」などの支援の指針を作り、各事業所が共通の視点にたち、それぞれに応じた内容で実践を目指すことを心がけています。臨床実習の際には、各事業所の取り組みから、支援の実際や在り方について、学べる機会になるように心がけております。

②「太田 Stage 評価を基本においた支援の構築」

当法人の嘱託医である太田昌孝先生(心の発達研究所理事長)が開発をされた「太田 Stage」は、自閉症の認知発達に視点をおいて、個々の発達段階を捉え、適切なアプローチを行うことを心がけているものです。「LDT(言語読解力テスト)」は、簡単な検査方法であり、客観性を伴うもの

でもあるので、支援に携わる支援者間でも、共通の基軸として活用することができます。成人期支援の場としては、生活、活動の場面の設定、あるいは、行動に対する背景を探る際の視点として、活用しています。この研修プログラムの中では、「評価方法」の演習を取り入れております。

3. 実務研修プログラム

3回の研修プログラムの概要は、以下の通りとなります。プログラムは、「けやきの郷」内の各事業所に、臨床実習と講義とにセットにしなが、構成しております。

	9:00	10:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00
	18:00								
月曜日				受付		開講式			意見交換会
火曜日			講義「けやきの郷の理念」						
水曜日	オリエン テーション	臨床実習 (ワークセンターけやき)	休憩		臨床実習 (ワークセンターけやき)				演習 「太田 Stage 評価」
木曜日	オリエン テーション	臨床実習 (やまびこ製作所)	休憩		臨床実習(やまびこ製作所)		講義「自閉症者の就労支援」(やまびこ製作所)		
金曜日	オリエン テーション	臨床実習 (初雁の家)	休憩		臨床実習 (初雁の家)				講義 「GHの取り組み」
	講義・臨床実習 「発達障害者支援センター」		閉講式	まとめ					

4. 最後に

前段にも触れましたが、この「発達障害スーパーバイザー養成研修(実務研修)」の機会を通じて、研修生と職員(受入側)が相互に学び、成長に繋がる貴重な場であることを常々感じております。私たち「けやきの郷」としても、「開かれた施設であること」を基本において、研修生の方々と交流をさせていただいております。研修生の皆様からは、貴重なご意見をいただくことも沢山ありました。「“けやきの郷”が取り組むべきこと」、「支援や考え方を振り返り、見直し、改善するべきこと」など、「これから」という前進に繋がるものでもありました。また、私たち職員の取り組みを後押ししていただけるような「温かいお言葉」もいただくこともできました。これからも、研修生の方々には、それぞれの支援の現場に持ち帰り、参考にして頂いたり、ともに支援にあたる職員同士の心の繋がりになることを心がけて参りたいと思います。この度は、誠に有難うございました。この場をお借りいたしまして、お礼申し上げます。

平成 29 年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 受け入れ実施報告

社会福祉法人 菜の花会
しもふさ学園 館山 聡

1 研修日程

平成 29 年度は 2 期を受け入れとして養成研修を実施した。以下、当方人でのカリキュラムとなっている。第一期 6 名、第二期 5 名 計 11 名の受け入れを実施した。

参加者の多くは、社会福祉法人所属の職員であったが、中には株式会社からの職員があったのも特徴であった。

実施機関名	社会福祉法人 菜の花会	担当者職氏名	統括施設長 小林 勉(館山 聡)								
連絡先住所	〒289-0111 千葉県成田市名木 511-15										
電 話	0476-96-1527	FAX	0476-96-0414								
E-mail	s-gakuen.1527@kna.biglobe.ne.jp										
事業の概要	障害者支援施設 しもふさ学園(施設入所支援 40 名 生活介護 40 名 短期入所 10 名) 生活介護事業所 しもふさ工房(生活介護 40 名) 多機能型事業所 アーアンドディだいえい(生活介護 50 名 就労継続 B 型 10 名) 生活介護事業所 ネクスト名木小(生活介護 40 名) 千葉県発達障害者支援センター CAS 共同生活援助 菜の花ホームズ 9 か所 38 名 放課後等デイサービス 10 名 菜の花会相談支援事業										
実 務 研 修 日 程											
1回目	10 月 16 日(月)～20 日(金)										
2回目	12 月 11 日(月)～15 日(金)										
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
月			おエンテーシ ョン	千葉県発達障害者支援 センターの役割(講義)		生活介護事業所の 取り組み①		質疑・応答 後、終了			
火	強度行動障害のある方への支援 (グループホーム見学含む)		昼食 ・休憩	放課後等デイサービス 見学		地域生活支援の実際(講義) グループホーム見学		質疑・応答 後、終了			
水	施設実習 ・日中活動支援		昼食 ・休憩	施設実習 ・生活支援		菜の花会 自閉 症支援実践報告	生活介護事業所 の取り組み②③	質疑・応答 後、終了			
木	施設実習 ・日中活動支援		昼食 ・休憩	法人の 理念(講話)		菜の花会の生活 支援	夕食を兼ねた 意見交換会				
金	ケース検討会(グループディスカッション)とまとめ										

2 実施報告

平成 26 年度から実施されたきたこの研修も 4 年を迎え、様々な法人からの研修生を受け入れてきた。目的としては、スーパーバイザーを養成する研修であり、全国にある全日本自閉症支援者協会の加盟施設での実施研修が行われている。そのような中、自閉症スペクトラムを持つ利用者さんの「支援」は同じでも、各法人においては、その理念・方針・技法等は異なっており、研修生は普段の違った環境に身を置いて学ぶこととなる。それを如何に自身の中に取り入れるのかは、SVとしての多角的な視点が必要とされ、柔軟性や発展性を問われることになる。研修後、如何に学びを自身の文化に取り入れ、消化し、自法人へフィードバックしていくのが課題となるのはSVには当然必要となってくることである。

当法人のスタンスとしては、受け入れを行った際は、必ず期間中に意見交換会を実施した。主旨としては、日中の研修時間では研修生とのコミュニケーションをとる時間がほとんど無い為、改めて時間を作り、お互いに活発な意見交換ができるよう、そしてより深い議論ができるようテーマを絞りながら有意義な時間となるようにした。

意見の中には、多くは称賛の意見が占めていたが、中には支援についての疑問・指摘等もあり、受け入れ施設として学ぶべき内容もあり、大変有意義な意見交換となった。この意見交換はとても有意義なので、今後も継続していきたいと考えている。また、意見交換での指摘や疑問については現場へフィードバック、会議を通して伝えていった。また、これまで課題であった研修生のキャリアについては、今年度は経験 9 年目以降の職員の参加であったので、およそ共通した議論が持てた。

5 日間でどれだけ吸収していただけるのか、逆にどれだけ情報を提供すれば良いのか。各法人に委ねられる部分は多くなるが、5 日間連続という、通常の業務を抱えている職員としては、なかなか与えられることの無い研修機会ではあるので、有意義な研修となるよう、受け入れ法人としても努めていかなければならないところである。

まとめとして、この全国SV研修については、全国で活躍する支援者の為のネットワークが構築できるという、大きなメリットがある。担当としても、自分自身の人脈が広がっていくのを実感しており、今後も継続していただければと考えている。

また、今年度はフォローアップ研修も実施され、求められていく基準は高くなっていると考えられるし、世の中にそのニーズがあることが分かる。よって、当法人でもその多様化するニーズに応じた人材の育成に協力できるのであれば、できることについては協力していきたいと考えている。

平成29年度 発達障害支援SV養成研修

実務研修受入報告

嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦
統括施設長 石井啓

社会福祉法人嬉泉では、嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦(袖ヶ浦のびろ学園及び袖ヶ浦ひかりの学園の所在する袖ヶ浦地域における事業拠点の名称)にて、10月、11月、2月の各5日間、計7名の受講生を受け入れた。



1. 企画段階での受け入れに関する確認事項

- ①当法人の療育支援において根本的な考え方となる「受容的交流」の理念に基づいた講義や臨床実習のプログラムを企画・検討する。
- ②研修生と積極的に情報・意見交換をし、自らの支援を客観的に見直す機会とする。
- ③実際の支援現場に入る事業拠点を限定し、より利用者に対する療育や理解を深められるようにする。(オリエンテーション時の事業説明や事業所見学は全事業所を網羅する)。
- ④可能な限り現場での臨床実習の時間を増やし、実際に行われている支援を体験してもらう。
- ⑤毎日必ず振り返りの時間を作り、その中で意見交換を行うと共にそこで職員からのピアスーパービジョンを実施する。

2. 企画段階での課題と対応

- ①支援に対する理解や利用者との関わりをより深められるようにする。
→昨年度に続き、実際の支援現場に入る事業拠点を袖ヶ浦ひかりの学園(成人施設)、袖ヶ浦のびろ学園(児童施設)の2カ所に限定した。どちらに入るかは事前に受講生に選択してもらい、5日間を通して選択した事業所にて研修してもらった。
- ②28年度の研修生から、選択した事業所以外の職員と話をする機会が欲しかったとの意見が聞かれていた。その為、全研修生と各事業所の職員が集いディスカッションをする時間を設け、実際に研修に入る事業所以外の支援についても理解を深められる機会とした。
→臨床実習に入っていない事業所の支援について話を聞く機会があったことは概ね好評であった。一方、主に上位者が参加していたため、経験年数の浅い職員の話をもっと聞きたかったという意見も聞かれた。

③宿泊場所の提供について

→アパートタイプの宿舎(個室でプライバシーが確保される)を提供した。受講生の事情により外泊を希望する方については、事業所近辺のビジネスホテルを利用してもらった。

3. 参加者の方のご意見、感想等

以下は事務局提出の実習報告の写しや、研修終了後に記入してもらったアンケートの中からの抜粋である。

- ・「現場で利用者に関わる職員の様子を見て感じたことは、どの職員も利用者に寄り添い、利用者の“心”を受け止めようとしているという事である。その積み重ねが信頼となり、職員に安心して頼ることが出来るようになるのだと感じた。それこそが“受容的交流”の考え方なのだと思う。」
- ・「受容的交流の理念も基に支援者側の姿勢が一貫されている。また必要に応じ適度に構造化された環境等、支援者が利用者の方に真摯に向き合おうとする姿勢が見られ、自身の事業所もこうありたいと強く感じた。」
- ・「嬉泉の考える受容的交流の考え、実際の支援に触れ、改めて自閉症や障害者支援の核となる本質的な部分に向き合うことが出来た。」
- ・「支援現場で先輩支援員が後輩支援員に助言している場面があった。その中で、後輩支援員がうまく表現できずにいる気持ちを先輩支援員が捉え、その表出をサポートするような様子が見られた。まさにそのやり取りの中にSVとしての役割があり、その積み重ねがより良い支援につながっていくのだと感じた。」

4. 受け入れを通して

今年度も昨年同様に実際の支援現場に入る事業拠点を、袖ヶ浦ひかりの学園(成人施設)、袖ヶ浦のびろ学園(児童施設)の2カ所から選択してもらい、終始同事業所で研修を重ねる事により支援に対する理解や利用者との関わりを深められるようにした。28年度は全研修生がひかりの学園を選択したが、今年度はひかりの学園計4名、のびろ学園計3名の希望があり、それぞれ選択した事業所にて臨床実習を行ってもらった。上記ご意見、感想欄に抜粋を記載したが、概ねどの研修生の方も有意義な時間を過ごしていただくことができたように思われる。また、私共としても、現在自分たちが行っている支援を、外部の方に誤解なく分かりやすく伝えていくことを課題として掲げており、その点ではこちらとしても大変良い機会であった。今後も本研修事業がより有意義なものとなるよう、法人として、施設として力を尽くしていきたい。

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 正夢の会
昭島生活実習所

1.実施期間、人数:各回2名

1回目	平成29年10月23日(月曜日)～平成29年10月27日(金曜日)
2回目	平成29年11月13日(月曜日)～平成29年11月17日(金曜日)
3回目	平成29年12月11日(月曜日)～平成29年12月15日(金曜日)

2.実施場所:

- 初 日 : 講義・パサージュいなぎ(施設入所支援、生活介護)見学
 2・3 日目 : 昭島生活実習所(生活介護)
 4・5 日目 : 多摩市ひまわり教室(児童発達支援事業)

3.実務研修プログラム

(1) 日程表

曜 日	9:30 10:00	12:00 13:00	13:30 14:00	15:00 16:00	17:00	17:45
月曜日			受付	開講式・オリエンテーション・見学 講義1 「正夢の会の取り組み」: 1回目:山本事業統括 2・3回目:清水地域支援局局長 講義2「事例検討の意味」:堀内レスポールいなぎ センター長		意見交換
火曜日	オリエンテーション	臨床実習 昭島生活実習所	休憩	臨床実習	講義2 「正夢の会の発達障害のある方への 取り組み」:小島施設長	まとめ 意見交換
水曜日	臨床実習 昭島生活実習所		休憩	臨床実習	講義3 「発達障害のある方の理解とアセスメント」:森心理士	まとめ 意見交換
木曜日	オリエンテーション	臨床実習 多摩市ひまわり教室		休憩	振り返り 講義4 「発達障害児の特性理解と支援の 実際」:清水施設長	まとめ 意見交換
金曜日	臨床実習 多摩市ひまわり教室			休憩	閉講式・全体のまとめ 意見交換	

(2) 振り返り

- ・ パサージュ、昭島生活実習所、ひまわり教室の3か所を見学したが、どこも構造化やカード提示など良くできている。パサージュ生活介護のワーク2階の構造化(扉)など、手作りでここまでできるのかと思った。
- ・ ひまわり教室めろんクラスのスイートポテト作りでは、集団の中の個別配慮、手順書の見せ方、手の添え方が個別的にされていた。1グループは机に何もおかず1つずつの提示、3グループは全部乗せ、2グループはその中間と、子どもに合わせて環境調整がされていた。自分はそこまでやっていなかった。サブスタッフが「ここはこうしたら」と声をかけて、支援しながら調整していた。
- ・ プロンプトで、肘を支える程度で良い子の腕を取っていたり、感覚過敏の子どもの後方から抱え込むように介助していたりする様子が見られた。支援には遊びの幅を持たせることも大事だと思う。
- ・ 構造化がしっかりとされていた。
- ・ 支援計画でコミュニケーションを一番に置いていると聞いて、自分は職場でそれを勧めた時にADLが一番と反対されたことがあった。伝わった経験の積み重ねやわった経験の積み重ねは大事と思う。
- ・ 記録を良く取っていて、ほしい情報が記録されるフォーマットになっている。PDCAサイクルで生かしている。実績も残るため、やりがいに繋がると思う。
- ・ スタッフの情報伝達も良くできている。
- ・ 幼児の動き、小さなサイン、やりとりを見逃さないスキルがある。方向性の一致、理解、共有がされている。
- ・ 皆、明るく、親切。
- ・ 久しぶりに現場に入ること、若手スタッフの戸惑い等がわかり初心に返れた。
- ・ こまかな配慮が多く、大変勉強になった。

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 横浜やまびこの里
東やまたレジデンス 木村 重之

横浜やまびこの里での実務研修について

横浜やまびこの里では、自閉症・発達障害の人たちへの専門支援機関として事業を展開している。支援に携わる職員が自閉症の障害を理解して、ひとりひとりにあわせた個別化された支援による自立支援や地域生活支援を目指している。当法人での実務研修では、施設サービス内での取り組みだけでなく、発達障害支援のスーパーバイズに必要とされる障害の捉えかたや支援のプロセスからチームによる支援のしかたを含む支援のマネジメントなども研修カリキュラムに設定した。

1. 実施日程

第1回 平成29年11月6日(月)～11月10日(金)

第2回 平成29年12月4日(月)～12月 8日(金)

2. 研修カリキュラム

	時間	内容	形式	場所	備考
月	13:30	研修オリエンテーション		会議室	
	14:00	法人の成り立ちと理念	講義	会議室	
	15:00	施設見学1(東やまたレジデンス)	見学	作業班	生活介護支援時間帯
	16:00	基本的な支援の考え方	講義	会議室	
	17:00	質疑応答一終了	意見交換		
火	10:00	観察と評価	講義	会議室	
	12:00	休憩			
	13:00	観察と評価演習	演習	会議室	
	16:00	施設見学2(東やまたレジデンス)	見学	作業班	生活介護支援時間帯外
	17:00	施設見学3(東やまたレジデンス)	見学	各ユニット	施設入所支援
	19:00	質疑応答一終了	意見交換	会議室	
水	10:00	施設実習1(東やまた工房)	現場実習	作業班	生活介護で観察記録
	12:00	休憩			
	13:00	施設実習2(レジデンス・工房)	現場実習	作業班	生活介護支援体験
	17:00	※オプション 作業エリア会議参加	聴講参加	会議室	※希望参加
木	10:00	施設見学3(ポルト能見台)	見学	作業班	生活介護
	12:00	休憩			
	13:00	事例検討1(通所者プログラム)	講義	会議室	グループホーム支援
	14:20	事例検討2(入所者支援)	講義	会議室	入所受け入れ準備
	15:40	事例検討3(家庭・地域への支援応用)	講義	会議室	家庭へのプログラム
	17:30	質疑応答一終了	意見交換	会議室	
金	10:00	行動障害への支援	講義	会議室	
	11:30	質疑応答・意見交換	意見交換	会議室	
	12:00	終了式一解散			

3. 研修構成

①講義・演習

対象となる受講者は年間の全体講義において自閉症の障害特性や支援技術の受講が終了しているため、最初に構造化された支援を提供する理由や意味を理解してもらう「基本的な支援の考え方」「観察・評価」を講義として設定した。ここでは方法論や技術論が支援の目的とならないように、ひとりひとりに応じた生活の向上や自立の目標設定とアセスメントの考えかた、そして客観的に見るべき観察のポイント、活動環境の工夫や支援のありかたを説明した。その後利用者の動画を見て観察と評価を演習形式で実施してもらった。

「行動障害への支援」の講義では、利用者が“行動障害を起こす人”でなく、環境との相互関係の中で生じている行動の仮説を障害特性と関連付けて説明した。そして“わかりやすく環境を変える”ことで行動が改善できる可能性を説明した。受講者が今まで学んだ講義を振り返り、利用者が示す行動を客観的に観察して、得られた情報と自閉症の障害特性を関連付けてチームで対応策をイメージできるようにした。

講義と事例検討や現場実習では一貫して、単独職員による支援でなく「利用者をチームで支えていく仕組みやポイント」の重要性を説明した。理由としては本研修を受講者する多くが、管理監督職クラスであり、障害理解や評価だけでなく、支援スキルや経験を問わず様々な職員構成のチームで支えていく仕組み作りに苦慮しているという声に応えるためである。

②現場見学実習

作業エリアでの個別化された支援の工夫や、チームが同じ考えや関わりによる支援を実施する仕組みを現場見学や支援補助として参加してもらい学んでもらった。また利用者ひとりひとりに設定している活動の工夫や構造化された支援が、評価に基づいて設定している理由を、ワークシートを使用して観察や聞き取りで整理してもらった。オプション(任意参加)として作業班のエリア会議に聴講参加してもらい、平常どのように職員間で利用者情報を共有して検討しているかを体験してもらった。今年度も引き続き、横浜市の南部方面で運営をしている「ポルト能見台(生活介護事業)」の見学も加え、事業所が別の場所にあっても一貫した考え方で支援が進められていることを理解してもらった。

③事例検討

最初に行動障害の人たちがグループホームでの暮らしの中で適切な習慣を獲得するために、評価－計画－実施のサイクルを繰り返して支援調整をおこなったケースを紹介した。

残りの2事例は新規利用者の受け入れについて情報を集めながらチームで受け入れの準備を行うことの重要性を紹介した。また、家庭での過ごし方についての支援を家族と協力しながら行った支援を紹介した

法人から実務研修実施の感想として

研修全体を通しておおむね高い評価を得られていた。観察評価の演習内容は現場でもフィードバックできるという意見もいただいた。横浜やまびこの里を実務研修場所として希望した多くの理由が、「TEACCHや構造化された支援の実際を学びたい」ということであったが、前述通りに方法論や技能の習得より、ひとりひとりの自閉症の人たちを理解するポイントと、チームによる支援のすすめかたに研修の力点をかけた。実地研修の講義を実施した管理職、現場案内を担当した監督職、支援会議に参加する現場職員、事例報告を担当した中堅職員が同じ考え方と言葉を使用して支援をおこなっていく状況を見てもらった。

全国の様々な機関から参加されている貴重な本研修であり、実地研修では各自の学びの他に受講者間の交流やネットワーク作りが期待されるだろう。しかし単発研修のためその場限りのつながりで終わってしまうため、フォローアップ研修などの仕組みが期待される。

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修

実務研修の受け入れから

障害福祉サービス事業 川崎市くさぶえの家
園長 永井 岳治
担当 新井 通浩

当事業所では表記研修の研修生を10月1名、11月2名受け入れましたので、取り組みにつきましてご報告いたします。よろしく取り計らい下さい。

1. 実務研修受け入れに際しての確認

- ①法人の基本理念・施設の基本方針に沿った対応をする。
- ②全職員に実施の意義を説明し、研修成功への協力を依頼する。
- ③職員のスケジュール。
- ④事業所の歴史を含むあらまし。
- ⑤チューター役の職員にとっても研修であることを自覚する。

2. 実習に向けての計画

- ①期間中のプログラムの策定。
- ②当事業所嘱託のスーパーバイザーによるケアカンファレンスの実施。
- ③利用者への説明。
- ④職員のスケジュール。
- ⑤スライドを用いた施設概要の説明会。

3. 実務研修プログラム

	8:30	9:00	12:00	13:00	15:30	16:00	17:00
火	出勤 オリエンテーション	現場実習 (体操・作業)	昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 反省会	退社
水	出勤	現場実習 (体操・作業)	昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 反省会	退社
木	出勤	講義 「自閉症者への地域支援」	昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 反省会	退社
金	出勤	現場実習 (体操・作業)	昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降園	休憩 ケースカンファレンス	

4. 活動内容

<体操>

1日2回実施。朝は身体を起動すること、午後はクールダウンを目的に『常同行動・多動』に配慮した種目を、機会音響を使用せずマンパワーで行っている。また、カウントを行うことで始めと終わりを明確にしている。身体の使い方にぎこちなさのある自閉症者への体操提供は頭・足・腕などの部位の理解

と、歩行などの身体の使い方などの向上に繋がる。また、健康の把握にも役立てている。リーダーは全体把握、利用者の反応、声掛けのタイミングに留意しながら進行する。

<作業>

『作業解体・部品組み立て』など障害特性に配慮し、「始めと終わりがわかりやすい」作業種を企業開拓し、提供している。授産に力点を置くのではなく、『集中力・持続力・達成感・コミュニケーション能力』の獲得を目的としている。企業に赴いての園外作業の取り組みなどやりがいを感じられるプログラムも提供している。支援者は担当する利用者の課題を理解し、集中を促す声掛けと課題提供のタイミングに留意する。また、出来高などがやりがいや達成感、それに至るまでのプロセスをコミュニケーションの源にする。

<給食>

「食」が生きるための重要課題であること意識し、意義・マナー・楽しさを伝えている。各種行事での特別メニュー、リクエストメニュー等も提供している。摂取の様子から健康状況を確認する。

5. 講義内容

テーマ:『自閉症の方々の地域支援について』

講師:くさぶえ地域相談支援センター相談支援員

- くさぶえ地域相談支援センターの役割
- 活動内容
- 「行動障害のメカニズム」
- 支援方法について
- 実践報告
- 質疑応答

6. 参加者の感想

<日課について>

- ・大まかな時間の中で周囲の状況を見て判断させる、指示の下で動く対応をしていた。
- ・提供する課題が適量だった。月1回の行事が楽しみに繋がっていると思う。
- ・12～13時の昼食・口腔ケア・余暇の取り組みに重要性を感じた。

<支援について>

- ・社会性・コミュニケーションを重視した対応が、チームアプローチで行われていた。
- ・メリハリを付けるため、ON・OFFの使い方ができるよう細かなところまで声掛けをし、生活にハリを付けていた。
- ・行事等の事前説明、振り返りを大切にしているのでアイデアとして活用したい。

7. 受け入れを終えて

今年度も実習生一人ひとりのモチベーションが高く、学びの姿勢に積極性を感じました。チューターを始め、その他支援員とのディスカッションの機会により交流も深められたと思います。多くの質問を受け、根拠ある支援・効果の説明を差し上げましたが、これは支援員の説明力向上にもなりました。

今回の実習を通して、参加された方々がリーダーシップをとってそれぞれの職場に還元していただけたら幸いです。

平成29年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修

実務研修の受け入れ報告

社会福祉法人 めひの野園

障害者支援施設 うさか寮 施設長 東 真盛

めひの野園では、9月に3名、10月に2名の方を各5日間受け入れた。

1 めひの野園が、この研修で目指したもの

めひの野園では、自閉症の人たちへの関わりのあるあり方と、関わりを通じた理解のあり方について、彼らと共に学びながら、生活支援の場、就労支援の場、相談支援の場及び地域支援の場を整備し提供してきた。多岐にわたるこれまでの取り組みをどこまでお伝えできるか疑問ではあったが、すべてをオープンにし、私たちのささやかな取り組みが、参加された方たちの明日への力添えになればと、幅広く取り組みを伝えることを目指した。

2 企画段階での課題と対応

長期間に渡る研修の受け入れが、変化への対応が困難な利用者にとどのような影響が出てくるかが課題だった。他機関からの実習依頼を調整したり、事業所ごとの受け入れを2名以下にするなど利用者の特性に配慮し、時には研修プログラムを変更しながら実施した。

また、参加者の実習意欲を高め、効果的な研修となるように実習の最初に参加者のニーズ確認をおこないプログラムに反映した。

3 研修プログラムの軸

(1) 環境設定

自閉症の人たちが安心して心穏やかに過ごすためには、環境がとても大きく影響する。そこで、入所における個々の特性に合わせた配慮、働く場におけるわかりやすく見通しのつきやすい配慮等を考察する。

(2) 働くこと(日中活動)

当園では、出来ること・得意なこと・好きなことを活かし、「働きがいのある、人間らしい仕事」を提供することを目標としており、20種目を越える作業が用意されている。実際の作業体験を通じて、働くことの大切さと一人ひとりの可能性を高める支援について考察する。

(3) 委員会活動

当園では、法人内の横断的な連携の取り組みとして11の委員会活動がある。その中から、支援が難しいとされる自閉症児(者)にとって特に重要であろうと思われる「個別支援委員会」、「人権擁護委員会」の活動を紹介する。

(4) 地域生活支援

地域の中で自閉症の方たちが多くの人たちの助けを借りながらも、自立した生活ができるよ

う援助している。また、地域社会そのものに働きかけて、より多くの人たちが自閉症について理解を深め、支援の輪に参加できるよう取り組んでいる。支援センターやグループホームの取り組みを通じて地域生活を支える支援について考察する。

4 実務研修プログラム

曜日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月曜					受付	開講式 オリエンテーション	講義 めひのの自閉症支援		意見交換	
火曜	オリエンテーション	生活介護実習 (生産活動)	休憩	創作活動実習 絵画・書道教室	講義 (環境設定)	講義 (人権擁護)				
水曜		就労支援実習 (生産活動)	休憩	就労支援実習 (移行支援含む)	講義 (個別支援)	講義 (支援センターの活動)				
木曜		就労支援実習 (販売・地域交流)	休憩	就労支援実習 (移行支援含む)	講義 (地域生活)	余暇活動 和太鼓				
金曜		実習(選択) (生活支援・生産活動)	休憩	閉校式・まとめ 意見交換						

5 研修を終えて

この研修を実施するにあたり、参加者の皆さんに満足してもらうにはどうしたらよいかを常に意識し、一方的な情報提供にならないように留意しながら、一人ひとりの研修ニーズに応えるように心がけた。

受講者からは、「特性に合わせた環境、作業が提供されていた」、「見通し、出来ることがあることが安定につながるようになった」、「環境・ハード面の大切さがよくわかった」、「ゆったりした気持ちで、待つてあげる仕組みがあった」、「PDCA サイクルが回っていることが理解できた」などの声が聞かれた。利用者を正しく理解し、出来ること・好きなこと・得意なことを活かした仕事を創り出すことを大切にしている当園の姿勢を伝えることが出来たのではないかと感じている。

しかし、回を重ねる毎に新たな発見があり、本当に有効な実務研修となったのか、終わるたびに反省させられ、受け入れ側としてもいい勉強になっている。ある参加者からは、「細かいテクニックを見たかった」という意見が聞かれた。現在、利用者は落ち着いて活動に参加しているが、彼らの示す問題行動に向き合い、ぶつかり合いながら、試行錯誤してきた35年間の事例の積み重ねと知恵で今がある。自閉症支援においてはその過程が大切なのではと思う。そのノウハウをどうすれば伝えることが出来るのか、体験を通じてどの様に学んでもらうかを考察し、今後の実務研修に役立てていきたい。

この研修を通じて、チームでノウハウを蓄積し、現場をワクワクさせる人材が、地域にたくさん育成されることを願っている。

平成 29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

自閉症総合援助センターあさけ学園

施設長 近藤 裕彦

1. 研修者の受け入れ状況

平成 29 年度は、①平成 29 年 8 月 22 日～26 日、②11 月 13 日～17 日、③12 月 11 日～15 日の 3 回に分けて、それぞれ 3 名ずつ合計 9 名を受け入れた。研修者が所属する事業所の種別をみると、生活介護・施設入所支援 2 名、生活介護(通所)1 名、就労継続支援A型 1 名、同じくB型 1 名、児童デイサービス1 名の他、ライトハウスや精神病院からそれぞれ 1 名ずつと多岐にわたる。この中には看護師の方が 1 名含まれていたため、本人の希望に沿って下記 2-(6)の児童精神科外来を研修場所として提供した。このうち、全国自閉症支援者協会の加盟施設の職員は少なく、3 名のみとなっている。

2. 各研修機関の事業の概要

自閉症総合援助センターあさけ学園では、以下の(1)～(6)の支援機能を一体的に運用し、自閉症のある人たちへの総合的なアプローチを進めている。今年度の研修プログラムは、主に(1)～(3)の現場での臨床実習を中心に組み込まれた。

- (1) あさけ学園(入所)…施設入所支援・生活介護 40 名。ユニット化した小集団の居住環境を活用し、24 時間を通じた生活支援プログラムを提供する。
- (2) ワークセンターひのき(通所)…生活介護 40 名。利用者は自宅やあさけホームから通勤し、労働・作業を中心とした日中活動へ参加している。
- (3) あさけホーム(グループホーム)…21 名(4 棟で構成)。日中活動の場(ワークセンターひのき)と協力して地域生活支援プログラムを展開する。
- (4) 短期入所…4 名(あさけ学園に併設)
- (5) 三重県自閉症・発達障害支援センターあさけ…専門的な相談機関として、地域の発達障害のある人たち、家族、関係諸機関への相談・発達・就労支援を行なう。
- (6) あさけ診療所(児童精神科、心療内科)…自閉症や発達障害をはじめとした児童精神科外来診療、施設利用者他の医療的ケアを担当している。

3. 研修を終えた参加者の感想

参加者の感想については、研修最終日の「意見交換・最終まとめ」での発言内容や、終了後に届いた「発達障害支援スーパーバイザー養成研修：報告書(実務研修講義)」のコピーに基づき、より詳細に振り返ることができた。概観すると、「ここで学んだことはすぐに現場で活かせるものばかりだった。自分の現場でも役立てていきたい」とのこと。おそらく第2～4日目の現場実習を通して、朝の引き継ぎから参加してもらい、夕方の意見交換・まとめを担当する職員と一緒に日中活動の現場に入り、その職員と利用者や他の支援員とのやりとりを観察した後、その日の終わりの意見交換にのぞむ体制を取ったことが、具体的なスーパーバイズの一事例となり、分かりやすかったのではないかと考えている。

最後に、研修を終えた一人から当法人の機関誌『檜の里』に寄稿された原稿があるので紹介しておく。

表1. 自閉症総合援助センターあさけ学園における実務研修プログラム

	8:30	9:30	12:00	13:00	14:00	16:00	16:30	17:00
第1日目			集合	オリエンテーション 見学・質疑応答	あさけ学園(受注→居住棟) 現場実習			意見交換 まとめ
第2日目	引継	カンファレンス 支援の具体的方法等	休憩	あさけ学園(受注作業→居住棟) 現場実習				意見交換 まとめ
第3日目	引継	あさけ学園(オリジナル) 現場実習	休憩	あさけ学園(オリジナル作業→居住棟) 現場実習				意見交換 まとめ
第4日目	引継	ワークセンターひのき 現場実習	休憩	ワークセンターひのき 現場実習		休 憩	グループホーム 現場実習	
最終日	引継	意見交換 最終まとめ	終了					

今回私がSV養成研修に申し込みをしたのには理由がありました。平成24年に就労移行支援事業所を開設し、あるとき、岐阜県自閉症協会水野会長との出会いがありました。どこの馬の骨か分からない新参者の私を奮い立たせるような温かいお言葉や厳しいお言葉をいただきました。「あなたたちのやっている支援は上っ面の支援よ。発達障害といっても重い自閉症の人たちもいるのよ。そういった自閉症の人たちと私たちはしっかり関わっているのよ。自閉症の人たちを知らずに、よい支援はできないわよ。しっかり勉強しなさい」というお言葉でした。そしてあるとき「自閉症協会がしっかりと学べる研修をやっているから、あなた参加しなさいよ」と今回のSV養成研修を勧められ、やる気に満ちての申し込みでした。

講演会などで「あすなろ学園」の話題がときどきあり、日本で初めて自閉症の医療での療育を行なったということを知っていました。あすなろ学園を卒業された子たちの親御さんが生活の場として入所施設を作られたのが、実習を行なうあさけ学園であることを近藤園長から説明を受け、何とありがたい実習かと感激しました。

また檜の里の「檜」は、あすなろの木の別名が檜もどきであって、本当の檜を目指そうという想いからの名称であることを知り、40年たってもこのことを忘れないようにしているとのことで、支援者として大切な心を受け取りました。

実習に入ると、入所者がみなさんととても穏やかに過ごされている様子で、こちらではしっかりと支援が行き届いていることが伝わってきました。

日々の生活の中心を作業所での「就労」を軸に、生活のリズムを作られているとのことでした。近藤園長はここでの人生の意義を、大人として当たり前の生活を目指した取り組みのひとつが就労であるとおっしゃっていました。物の価値を知るうえで労働の対価を通じて気づけるということ、大変さを知ることが感謝の気持ちを持てたり、自立した生活に繋がるとのことでした。こんな親の子への思いが、いろいろなところに形となっていることを気づかされました。

特別な遠い存在であった自閉症の方々と直接に関わる機会を得て身近に感じられるようになりました。入所者の方々は、とてもいい人ばかりでした。私が一番驚いたのは、自閉症の方が、一般企業でジョブコーチ支援にて働き続けているという事実です。本当にすごいことだと思います。地域とともに存在しているあさけ学園で学んだことを、自身の事業所でもその思いを伝えていきたいと思います。5日間お世話になり、本当にありがとうございました。

平成 29 年度発達障害支援SV実務研修報告

【要綱】

実施機関名	つくしの会		担当者職氏名	はぎの郷施設長 袖野 完						
連絡先住所	〒929-0443 石川県河北郡津幡町字別所へ1番地									
電 話	076-288-0339		FAX	076-288-0340						
E-mail	mail@hagino-sato.com									
特 色	<p>はぎの郷入郷者の生活支援、療育支援、強度行動障害療育、ノーム通所者の就労支援、療育支援、生活相談、GH の在宅支援を行っています。又、県自閉症協会の年少児の在宅支援・相談支援にも関わっています。</p> <p>発達障害者支援センターでは、幼児年少期から青年成人期まで幅広く、相談支援、発達支援、就労支援等を行っています。</p> <p>自閉症の総合機関として、発達障害児者支援・療育の啓発を図ると共に、人材・機関を育成し、発達障害を持つ人々が安心して暮らせる社会環境の構築に取り組んでいます。</p>									
事業の概要	<p>障害者支援(自閉症者療育)施設 はぎの郷 生活介護40名、施設入所支援40名</p> <p>就労支援施設 ジョブスタジオノーム 就労継続支援B型20名</p> <p>グループホーム すぎな 介護サービス包括型共同生活援助事業7名</p> <p>石川県発達障害者支援センター パース 相談支援、発達支援、就労支援、普及啓発、支援者養成他</p>									
実 務 研 修 日 程										
1回	平成29年12月11日(月曜日)～平成29年12月15日(金曜日)									
曜 日	8:45	9:00	12:00	13:00	13:30	15:30	16:00	17:15		
12/11 月曜日 (女性)						受 付	自己紹介 近況報告 施設見学等	入浴 喫茶 余暇	総論: 「つくしの会」の思想	
12/12 火曜日 (男性)	オリエ ンテー ジョン	講義・演習[パース] 10:00～11:30 「発達障害支援ネットワーク」		昼食 はぎ 休憩		臨床実習[はぎの郷]	軽作業、織物、園芸他	臨床実習[はぎの郷]	〈事例検討[はぎの郷]〉 16:00～17:15 U氏(支援員2名)	懇 親 会
12/13 水曜日 (女性)	オリエ ンテー ジョン	臨床実習[はぎの郷] 朝の会→療育活動		昼食 はぎ 休憩		臨床実習[はぎの郷]	軽作業、織物、園芸他	臨床実習[はぎの郷]	〈事例検討[はぎの郷]〉 16:00～17:15 Y氏(支援員2名)	
12/14 木曜日 (男性)	オリエ ンテー ジョン	〈事例検討〉 K氏 (支援員数名)	講義討議 *医療連携の 取り組み	昼食 ノーム 休憩		臨床実習「ノーム」	製菓、フック、受注作業他	全体討議	16:00～17:15 *研修を振り返って	

12/15	オリエンテーション	【SV 発表】&【討論会】	閉
金曜日	センター	「つくしの会における自閉症支援への提言」	講
(女性)	ション		式

※講義及び最終日のまとめ・意見交換は各施設長・センター長が対応します。

1. 実務研修を受け入れるにあたって

当法人の「SV 実務研修」受入は3年目になった。今年度は、実習そのものの内容をより充実させるために職員配置の関係で年1回とさせて頂いた。研修者は5名であった。

内容は過去受講された方々の意見を真摯に受け止め、より現場に近く専門性の高い内容にと知恵を絞ったが、やはり外部の力ある研修者を受け入れるのはとても緊張することであった。

毎回のことであるが受入側としては、外部の目で生の現場を見て頂いて、どしどしダメ出しをして頂く年1回の試験の場であるという覚悟で臨んでいる。忌憚のない、耳の痛い意見こそが、私達にとって次への課題解決への手がかりになるからである。

また参加される方々にとっては、私達の現場での研修は「スーパーバイザーになって帰って頂く」ということが目的であるので、私達が日々悩んで切ることや、手詰まりになって解決の糸口が見えなくなっている課題をそのまま研修者にぶつけて、その場で考えて解決策・方向性を見出してもらおう。その意見に疑問があれば反論する、更に突っ込んだ苦言を貰う、という意見の応酬の中で、お互いが成長していける場にしたいと企画している。

その意味でも、今回も現場の事例検討を中心に問答形式の研修とした。

2. 研修受入

平成29年12月11日(月)～12月15日(金)までの5日間 5名

3. 研修を終えて

今回は年1回と絞った所以であろうか、とても意識の高い方々にお集まりいただき、内容の濃い楽しい研修会になった。

5名という人数も良かった。一つの事例検討に対して5名の研修者もお互いに、「他者とは違った見方・角度からの意見を言わなくては…」という緊張感が常に感じられ、本当に様々なそして内容の深い豊かな意見が聞かれとても勉強になった。

研修者の方からも「しんどいわ～」と言われるほど、頭をフル回転させる研修を続けることができたのは望外の喜びである。と同時に研修者の方々も、お互いにとても刺激になっているのが手に取るようにわかったので、見ていて楽しい内容であった。

毎回「これで出し尽くした」と思ってやっているのですが、次回も…と考えると受け入れることは恥ずかしい限りではあるが、やはり終わってみると、実りの多い沢山の課題と財産を頂ける貴重な研修なので、次も踏ん張ってさらに内容の良いものにしたいと決意している。

平成 29 年度 発達障害支援スーパーバイザー実務研修受け入れ

社会福祉法人 北摂杉の子会

総務部 河辺太一

北摂杉の子会では9月と11月に各4日間、12人の方を受け入れた。

受け入れに際して、以下の事を念頭に置いた。

1 企画の段階での北摂杉の子会での確認事項

- ①参加者が研修に集中できるように、事前に様々な事項をお伝えする。
- ②オープンな環境作りに心がけ、施設のありのままの姿をご覧いただく。
- ③ミスのないように、事業所間の情報共有を確実にする。
- ④受け入れ事業所及び参加者間の懇親を深める。

2 実務研修プログラム

	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	18:00
初日						受付	14:00-17:00 開講式・オリエンテーション 法人本部 講義 北摂杉の子会の概要と支援のあり方		17:00-18:00 意見交換会
2日目	オリエンテーション	10:00-12:00 臨床実習 グループホーム レジデンスなさはら	休憩	オリエンテーション	13:30-16:00 臨床実習 萩の杜			16:00-18:00 講義「行動障害の支援」 萩の杜	
3日目	オリエンテーション	10:00-12:00 臨床実習 JJおおさか	休憩	オリエンテーション	13:30-16:00 臨床実習 ジョブサイトよど			16:00-18:00 講義「自閉症者の就労支援」 JJおおさか/J Sよど	
4日目	オリエンテーション	10:00-12:00 臨床実習 自閉症療育センターwill	休憩		13:30-15:00 閉講式・まとめ 意見交換				

3 実施してみて分かった課題と今後の対応

①情報の事前発信

※参加者に対して、事前に FAX で必要な情報を発信した。そのため、混乱なく研修に臨めたとの声をいただいた。

②施設への移動の問題

i 最寄り駅からの案内は、視覚支援の1つとしているホームページ内の写真案内を活用した。

ii 公共交通機関では不便な施設への移動は、施設担当者が車で送迎を行う。

③意見交換の方法について

i 参加者と事業所の意見交換や交流として懇親会を実施した。

ii 閉講式にも質疑応答の機会を持ち、気になった事柄等を確認した。



4 研修を終えて

研修のパッケージ化が確立しつつあるので、大きなトラブルなく運営できたように感じている。

受講者からも、

「施設で使用されているシートや支援グッズなど、快く提供していただき、大変ありがたかった」

「人材育成面で課題があったが、大いに参考になった」

という感想をたくさん頂戴できた。

この研修が、全国の自閉症・発達障がい・知的障がいのある方々への支援の質が向上することにつながることを祈念している。

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修受け入れ実施報告

平成30年6月30日
 障害者支援施設 あかりの家
 支援部 課長補佐 尾崎勇一

1. 受け入れ期間及び人数

	期間		日数	人数
①	9月	4日(月)～8日(金)	5	5
②	10月	2日(月)～6日(金)	5	4
③	11月 12月	27日(月)～1日(金)	5	3
計			15日	12人



(※) 県内5人、県外7人

千葉2名 京都1名 大阪2名 高知1名 大分1名 県内5名

2. 受け入れに際しての法人内の確認とオリエンテーションでの伝達

- (1) (自閉症総合援助センターを掲げる法人として) 法人全体で取り組む。
- (2) (この受け入れを機会に) より客観的で体系的な、施設と支援の説明言語を作り上げる。
- (3) (この受け入れを機会に) 地域等での支援者養成に乗り出す第一歩とする。
- (4) (支援のプロたちに見られることによって) 自分(達)の支援を客観的に見る機会とする。
閉じたり飾ったりする説明は避け、オープンで率直な説明に努める。

3. 受け入れ体制

- (1) 初日のオリエンテーションを始め、日々の反省会など、施設長以下、部長、課長補佐、主任等に対する。
- (2) 駅から徒歩 30 分を要する移動手段 → 最寄駅とあかりの家との送迎を毎日行う。
- (3) 5日間の宿泊場所 → 宿泊可能人数は少ないが、地域交流ホームを提供する。
→H29 年度の宿泊者は無し。
- (4) 研修プログラムづくり → 下記の通り
- (5) 和やかに率直な意見交換ができる雰囲気作り → 初日夜に懇親会を設定。お互いが言いにくいことの中に“支援の大事な要素”があるとの考えで、夕方の反省会を共に有意義な場とする。

4. 実務研修プログラム

- ・あかりの家の自閉症支援→キーワード→相談支援事業所あいあむ→発達障害支援センタークローバー→児童デイサービスといった流れでの講義を実施
- ・臨床実習としては、各作業活動に加え、体操活動、トモニ活動、(クラブ・整体)への参加見学を実施。

	9:00	12:00	13:00	13:30	14:30	15:30	17:00	17:30
(月)			受付	開講式・オリエンテーション(施設見学含む) 講義1「あかりの家の自閉症支援」			意見交換会	18:30 ～ 懇親会
(火)	臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→①ブラグ班、 ②軽作業班)	休憩	講義2「行動障害のある人たちへの支援—自閉症療育のキーワード集を通して—」			講義3「発達障害者支援センターの取り組み」 発達障害者支援センタークローバー	まとめ 意見交換	
(水)	①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→ブラグ班、軽 作業班、さをり班)	休憩	臨床実習 あかりの家(体操活動)			講義4「自閉症の人たちの地域生活支援」 地域支援センターあいあむ	まとめ 意見交換	
(木)	①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家(ブラグ班、 軽作業班、割箸班)	休憩	臨床実習 あかりの家(トモニ活動)			事例検討—リハビリ的 ショートステイ	受講者間 のフリートーク	
(金)	臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング) 臨床実習 児童デイサービス あかりの家	閉講式・まとめ 意見交換						

5. 昨年度からの研修受け入れにおける検討経過として

- ホテルの宿泊先を指定する形をとるか？その場合、受講者間の交流が深まるメリット有り
⇒交流の深まるメリットはあるが、受講者それぞれの意向など様々な要素が考えられる為に、今年度も宿泊先の指定の形は取らずに受講者の方に宿泊先は決めてもらった。
- 事例検討については、部長、課長補佐の3名が事例を準備。1回の実務研修においては3事例中2つの事例検討を紹介する。従って、各グループとも同じ事例ではない。
- 閉講式を最終日の午前中で終わらせるようにしてはどうか？(11:30~12:30)
遠方からの受講者への配慮として必要。反面、5日間の研修のまとめとしての閉校式の重要性を考えると十分な時間確保の為に、午後からの実施が良いという考えもある。
⇒今年度は閉講式を11:30~始め13:00には終了するようにした。受講者の負担を考えたプログラムではあったが、「最後においしい昼食を食べたかった」「遅くなっても良いから、もっとゆっくり色んな話をしたかった」など嬉しい言葉を聞く事もあった。

次年度以降も、課題や受講者、受け入れ施設のどちらの立場としてもより良い研修にする為に、改善できる部分や新たなアイデアを考え盛り込んでいければと考える。

6. 研修受け入れにおける法人全体の課題

研修生に多くを学び、感じてもらうことはもちろんではあるが、受け入れ側としても、この研修を通じて自分たちの仕事への向き合い、実践を明確な言葉として伝えることで説明言語を育てるといったことを意識している。また、自分たちの実践を振り返り、見直すことで気付く課題、自分たちでは気づけない日常的な業務での課題などを、受講生から率直に意見してもらうことで、現状に満足せず、常に一步前に進んでいけるように考え続ける機会にもなっている。

しかし、昨年度同様、この研修受け入れにおいて多くの部分を担っていただいている三原園長に変わる職員をどう考えるかといった課題において未だ解決に進める道は見つかっていない。

そんな中、研修後にあかりの家の支援についての強い批判レポートが間接的に届けられた。研修の始めに、受け入れ側としても、また受講者も思ったことはオープンに話すことを確認させてもらっており、受講中にはレポートに書かれているような内容の話は全くなく、回収させてもらったアンケートにも、否定的な意見はなく無事に全ての受け入れを終える事ができたと思っていた為に、強い衝撃を受けた。

しかし、自分たちが一生懸命行っている支援であっても、その説明が十分に伝わっていないこと、自分たちが問題として見えていない事が、受講生方からは違った捉え方で見えていること、そういった自分たちの至らなさに気付かされたことも事実である。悔しい気持ちは計り知れないが、この件をきっかけに今一度自分たちの支援を見直す機会として考え、より利用者の充実した生活の為に日々の支援に力を注いでいきたい。

7. まとめ

あかりの家はまだまだ多くの課題を抱えた施設である。その未熟さの反省の一方で、その抱えている諸課題も含めてオープンにする事へのリスクを考えずには今はいられない。実務研修受け入れ施設としての役割として、受講生の方に出来る限り充実した研修をと思い取り組んできたが、受け入れにおけるリスクといった部分への意識は少なくとも今回のような形では考えていなかった。自分達のリスクではなく、受講者の事を考え、出来る限り多くの学びや刺激を持って帰ってもらう事により、それぞれの施設、またその地域の発達障害の方への支援の充実を期待して。しかし、結果的には自分たちの支援、施設が窮地に追いやられているという事実はどう気持ちを整理すれば良いのか悩みながらの毎日ではある。しかし、下を向いている場合でもなく、下を向くようなことをしている訳でもない。今回の件における課題、自分たちの支援の弱さを深く考え、さらに良い支援を行っていくこと、その言葉を報告書の最後に書かせてもらいます。

平成 29 年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 三気の会
障がい者支援施設 三気の里
事業課長 岩田幸児

1. 受け入れ期間及び人数実績

1 回目	平成 29 年 09 月 12 日(火)～15 日(金)	4 名
2 回目	平成 29 年 10 月 10 日(火)～13 日(金)	6 名
3 回目	平成 29 年 11 月 21 日(火)～24 日(金)	4 名
4 回目	平成 29 年 12 月 19 日(火)～22 日(金)	4 名

受講者受け入れ内訳： 石川 1 名 兵庫 3 名 大分 4 名
長崎 3 名 鹿児島 2 名 熊本 5 名

2. 目的

発達障害支援スーパーバイザー養成研修を通し、県内外の障がい児者支援に携わる関係者を受け入れることで、三気の会の啓発と透明化を図り、自身の学びの場として位置づけ、法人、チーム、個人の力量を上げるものとする。また、三気の会がどのような位置にあるのか知る機会とし、その中で、三気の会としての特色を見出していく。

3. 意義

- ・自閉症に関わる施設として、協議会および社会に貢献する。
- ・施設の透明化を図る。
- ・支援を見直す。
- ・情報を整理し、説明する術を学び、説明責任を果たす。
- ・三気の会の立ち位置を知る。
- ・受講者から学ぶ、一緒に学ぶ。
- ・三気の会の誰もが対応することができるようになる。

4. 内容

- ・各事業所の業務説明
- ・各事業所の見学および臨床実習
- ・動作法の実技講習
- ・強度行動障がいへの取り組み
- ・熊本地震報告
- ・被災地見学
- ・受講者との情報交換

5. プログラム

曜日	9:30	12:00	13:00	17:30
火	10:00～開講式、オリエンテーション講義 「施設紹介」「三気の里の療育」	休憩	臨床実習 「障がい者支援施設 三気の里」 講義「強度行動障がいの療育」 被災地見学	18:30～ 懇親会
水	臨床実習 「児童発達支援センター 三気の家」	休憩	臨床実習 「児童発達支援センター 三気の家」	
木	臨床実習 「地域活動支援センター アンパ」 「相談支援事業所 たんぼぼ」	休憩	臨床実習 「熊本県北部発達障害者支援センターわっふる」	GH 見学
金	実技講習「動作法」 事例検討会	休憩	閉講式、まとめ ※13:00 終了予定	

※各事業所の都合により、日程の変更、一部内容の変更有。

6. 受け入れを終えて

SV 研修の受け入れをして3年になり、プログラムや受け入れ体勢も安定してきたように感じる。プログラムが安定してきたことは良い反面、いろいろな立場の受講者を受け入れる中で、受講者に応じてプログラムの内容を変える等、臨機応変に対応できると良いのではないかと感じている。SVは幅広い知識を必要とする為、何かに特化したものでなければならないということはないが、受講者の多くは自分達の事業所に持ち帰る何かを探しに実務研修を受けていることも一つの事実と捉えたと、受講者のニーズにも応じることは受ける側、受け入れる側双方にとってメリットのあることだと感じた。

昨年度は熊本地震の被害に遭い、研修の受け入れを火曜日にしたことで、ゆとりある研修を実施できたように感じている。また、プログラムに「地震報告」と「被災地見学」を取り入れた。受講者の中には危機管理責任者の方もおり、「地震報告」で多くのことを学び、施設に持ち帰ってマニュアルの見直しや、避難訓練のあり方を考え直すという声を頂いた。被災して経験したこと、今後活かしていきたいことを伝えることが出来たという点は大変良かったと思っている。

実務研修は研修を受け入れる側にとって、自分達の施設・自分達の支援を見直し、力量を上げる大きな機会である。その為、中堅スタッフを中心に研修を行い、自分達の施設・自分達の支援を言語化できるようにさせて頂いた。その点、受講者にはご迷惑をお掛けすることになったことは反省すべき点かもしれない。その反省を活かし、さらに良い研修を実施することができればと思っている。また、受け入れを行うことで、逆に受講者から学び、吸収し、さらに良い施設となるよう努めていきたい。

平成29年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 「社会福祉法人 萌葱の郷」実務研修報告

社会福祉法人 萌葱の郷
自閉症総合援助センター
事務長 原田 竜二

1. 実務研修の概要

当法人は『自閉症総合援助センター』として、早期療育・療育支援・生活支援・就労支援・余暇支援・相談支援・普及啓発・専門家養成等の機能をライフステージを通して総合的に提供し、自閉症を中心とする発達障がいのある人たちの豊かな育ちと暮らしを実現することを基本理念としている。単に適応や行動が改善されれば良しとするのではなく、発達障がいに対する理解と専門性を深め、肯定的な態度で接することで、安心感に基づく信頼関係を築き、支援者の態度や支援のあり方を振り返り、援助技術の不断の研鑽を重ねて支援することを法人職員全体の共通認識として日々の支援に携わっている。

<各事業所>

- ☆ 障害者支援施設 めぶき園（生活介護 40名 施設入所支援 30名 短期入所 4名）
- ☆ 障害福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい（生活介護 15名 就労継続支援A型 10名 就労継続支援B型 10名）
- ☆ 共同生活援助事業所 グループホームかわしま（共同生活援助 14名）
- ☆ ライフサポートセンター なごみ園（生活介護 10名 放課後等デイサービス 保育所等訪問）
- ☆ 大分県発達障がい者支援センター ECOAL（相談支援 就労支援 発達支援 普及啓発 支援者養成）
- ☆ ホームヘルプサービスセンター らすかる（居宅介護 行動援護 移動支援）
- ☆ こども発達支援センター 大分なごみ園（児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問）
- ☆ 相談支援事業所 プラス（地域移行支援 地域定着支援 特定相談支援 障害児相談支援）
- ☆ いぬかいこども園（通常保育 乳児保育 障害児保育 延長保育 一時保育 預かり保育 子育て支援センター）
- ☆ こども発達・子育て支援センター なかよしひろば（児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問）
- ☆ 戸次なごみ園（放課後等デイサービス）

2. 研修生の受け入れ状況

当法人では下記の日程で合計21名の研修生を受け入れ、月曜日から金曜日までの5日間で事業所ごとに講義と臨床実習という形式で実務研修を実施した。研修生の所属事業所種別は、入所施設（成人・児童）・児童発達支援センター・発達障がい者支援センター・障害福祉サービス事業所・公立学校教諭・医療関係等であり、管理者やサービス管理責任者等で経験年数も豊富な方が多かった。

- ①平成29年 8月21日(月)～ 8月25日(金) 6名
- ②平成29年 9月11日(月)～ 9月15日(金) 4名
- ③平成29年10月16日(月)～10月20日(金) 5名
- ④平成29年11月13日(月)～11月17日(金) 6名 合計 21名

※21名の内訳 県内 4名 県外 17名(都道府県別は下記参照)

青森県1名・宮城県1名・東京都1名・千葉県1名・岐阜県1名・富山県1名
兵庫県1名・徳島県1名・福岡県1名・長崎県3名・熊本県4名・鹿児島県1名

3. 実務研修プログラム

曜日	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	17:00	17:30	18:00
月曜					受付	開講式・オリエンテーション 講義「萌葱の郷の自閉症療育」				意見交換会		
火曜	オリエンテーション	臨床実習 自閉症者施設 めぶき園			休憩	臨床実習 自閉症者施設 めぶき園			講義「強度行動障害の療育」 自閉症者施設 めぶき園		まとめ 意見交換	
水曜	オリエンテーション	臨床実習 自閉症者施設 めぶき園			休憩	臨床実習 どんこの里いぬかい			臨床実習 GHかわしま		まとめ 意見交換	
木曜	オリエンテーション	臨床実習 なかよしひろば			休憩	講義「発達障害児の早期療育」 子育て総合支援センター			臨床実習		まとめ 意見交換	
金曜	講義「発達障害支援ネットワーク」 大分県発達障がい者支援センター ECOAL				休憩	閉講式・まとめ 意見交換						

4. 研修生の感想

- 大分県下での発達障害支援者ネットワークの構築が素晴らしいと思った。
- 宮城から遠いけど大分へ来て良かった。子育て総合支援センターを見学して感動し、早期療育の重要性を感じた。
- 強度行動障害の原因を考え環境や人的配置を整える事での改善、安心して暮らせるよう肯定的な支援に感銘した。
- 毎日慌ただしく支援をする中で利用者の気持ちを忘れかけていたが、今後は利用者主体の支援を考えていきたい。
- この研修は素晴らしいと聞いていたが、本当にボリュームがあり充実した研修となった。
- 関係性を築くことに重きを置いた支援や療育の事例を伺うことができ参考になった。
- 私の施設では構造化による支援が進んでいるので、関係性の支援による成功事例は大変勉強になった。
- 講義と実習を通して支援の考え方や現場での実践の場を経験することができ、支援に対し新たな視点を得られた。
- 様々な事業を展開されており、連携、交流を細かくしている事で利用者にとり過ごしやすい環境になる事が分かった。
- 実際に経験、実践されてきた療育を聞くことができ、持ち帰り職場でも実践し、自閉症の方へより良い療育を目指したい。
- グループホームを継続していく上で、地域との連携や繋がり大切さを改めて感じる事ができた。
- 職員が子どもの気持ちを代弁していることを見学し、子どもの気持ちを代弁することの重要性を感じた。
- 他機関や家庭環境においても一貫した支援により、一人ひとり安心した生活が送れるようになるという事を改めて感じた。
- 今まで自分がやってきた支援の仕方や反省点などを見直せる良い機会となった。
- 施設が都市型だと周りを気にするが、延び延びと過ごすことができている萌葱の郷の環境の良さを実感した。
- 一人ひとりの特性を見つけて支援していること、どの部署もゆとりを持たれて支援していること、とても勉強になった。
- 幼保連携型認定こども園と児童発達支援センターが隣同士にあり、連携して支援することの重要性を感じた。

5. 研修受け入れを終えて

今年度は21名の研修生を受け入れ、現場を共有し、研修生と職員が毎日お互いに意見交換することで、支援の課題、職員のスキルアップ等、職員の成長においても有意義な研修となった。

実務研修は、研修事業所で講義と臨床実習を行った。また毎日の終了時と閉講式に意見交換の場を設け、研修生から活発なご意見を頂戴し、支援の課題など当法人職員の支援を見直す良い機会になった。今後もこの実務研修を通して、支援の質を高め、利用者の豊かな育ちと暮らしや自己実現のために精進していきたい。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修 アンケート集計結果(前期)

【ご参加された方の情報について】

所属

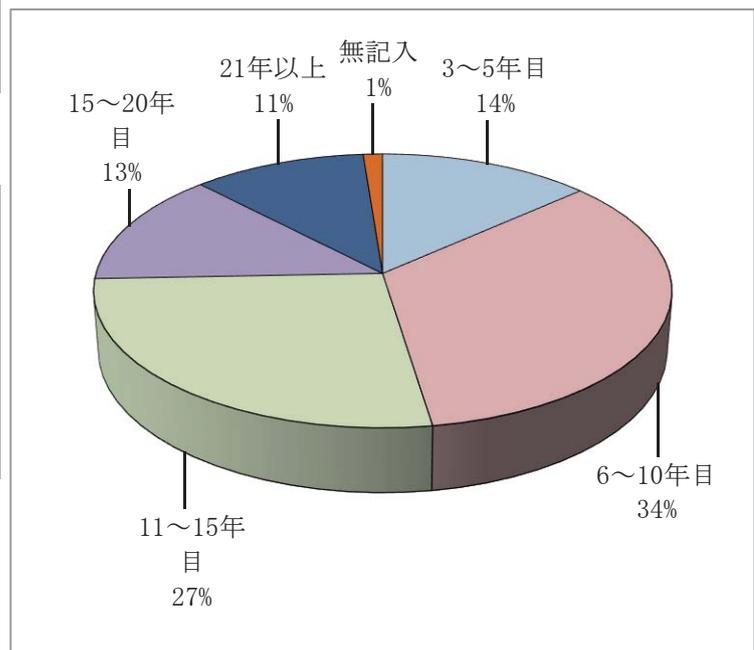
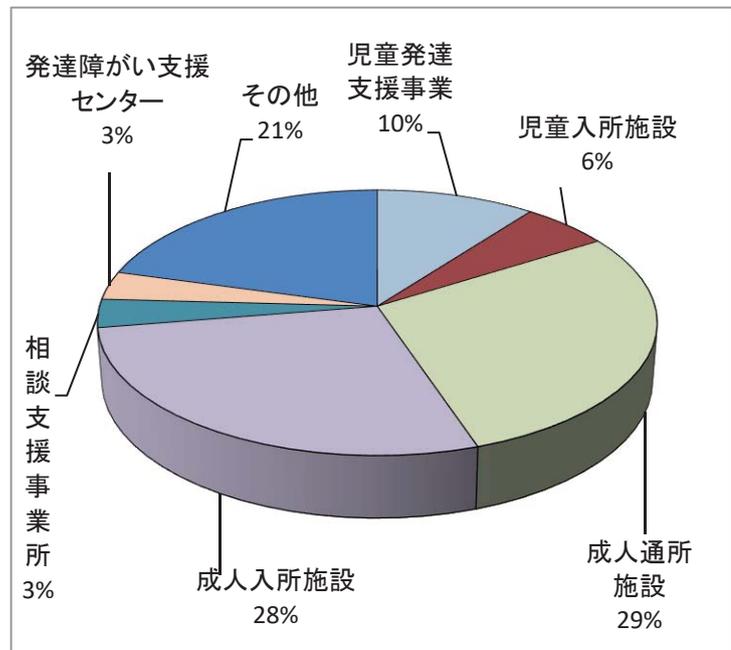
1	児童発達支援事業	9
2	児童入所施設	5
3	成人通所施設	25
4	成人入所施設	24
5	相談支援事業所	3
6	発達障がい支援センター	3
7	その他	18
	合計	87

(所属が2ヶ所以上が5件あり)

その他所属	
放課後等デイサービス	6
就労移行支援	1
病院	1
医療機関	1
県立高校	1
重度障害者雇用事業所	1
障害者支援施設、入所	1
多機能型事業所	1
短期入所	1
知的障害生活介護事業所	1
発達支援事業(自主事業)	1
無記入	1

経験年数

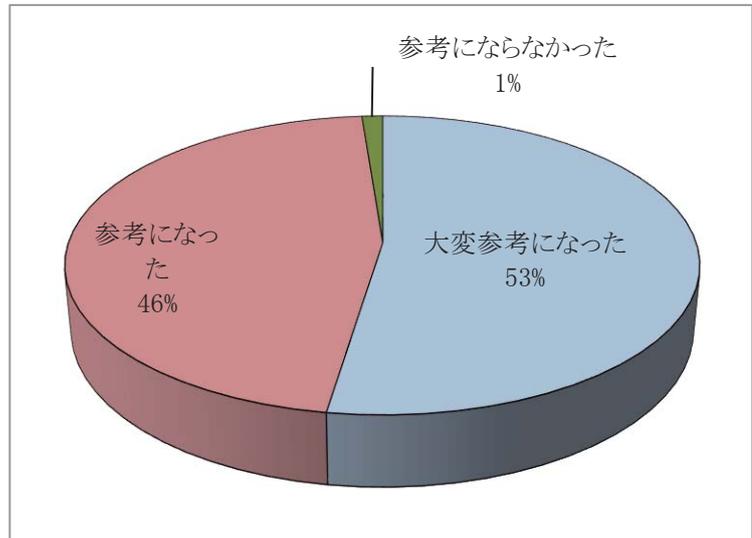
1	3～5年目	11
2	6～10年目	28
3	11～15年目	22
4	15～20年目	11
5	21年以上	9
	無記入	1
	合計	82



【講義のテーマ・内容について】

発達障害の特性理解（市川 宏伸 氏）

1	大変参考になった	43
2	参考になった	38
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	82



「大変参考になった・参考になった」の理由

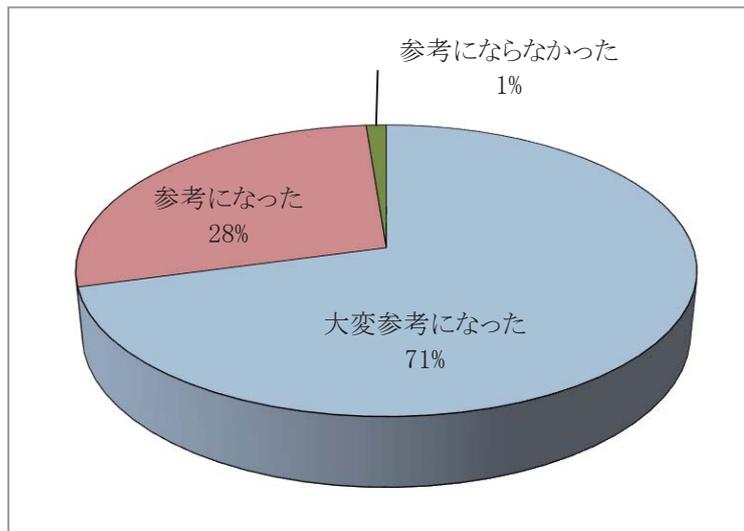
- ・ “どんなスタッフか?いつもテストを受けている”という言葉がとても印象に残った。常に利用者さんを見て結果を求めていく、そして努力しようと思った。初心に戻れました。
- ・ 医学的見地からの診断や動向を軸に、かかわり方の重要性、対象の言動のとらえ方について事例を交えてわかりやすくご説明いただいた。
- ・ 医師のことばは、エビデンスの上であり、とても参考になりました。発達障害を無くすのではなく、社会不適応を減らすという考え方は、所属する団体の理念の1つです。心にしみました。
- ・ 事例を用いながら、発達障害の特性の紹介、その特性に応じた対応方法を知ることができた。
- ・ ドクターとしての診断の仕方など、普段お聴きすることがなかったため、とても興味深くお話をお伺いさせていただきました。また、事例も多くあり、とても分かりやすく参考になりました。
- ・ 間違いやすい特性理解がとてもわかりやすくまとめられていた。事例も多く様々なケースをもっと知り、現場での対応にいかしたいと思った。具体的な声かけや対応の事例が良かった(参考になった)。
- ・ わかりやすく講義していただき、とても勉強になりました。特に事例を伺い、同様の方のことを思い出し、多方面からその方のことを考えるということができました。
- ・ 薬(向精神薬)の特徴、副作用など細かく学ぶことができた。
- ・ 様々な事例を挙げ、成功体験を聞き、前向きな気持ちになれた。また、支援には時間を要すること、いろいろな協力が必要であることが改めてわかった。
- ・ 実際の患者の事例も上げていただけわかりやすかったです。Drとしての考え方も聞けて良かったですし、薬についても触れていただけ参考になりました。

※他に53件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

特別支援教育の課題と展望（田中 裕一 氏・寺山 千代子 氏）

1	大変参考になった	58
2	参考になった	23
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	82



「大変参考になった・参考になった」の理由

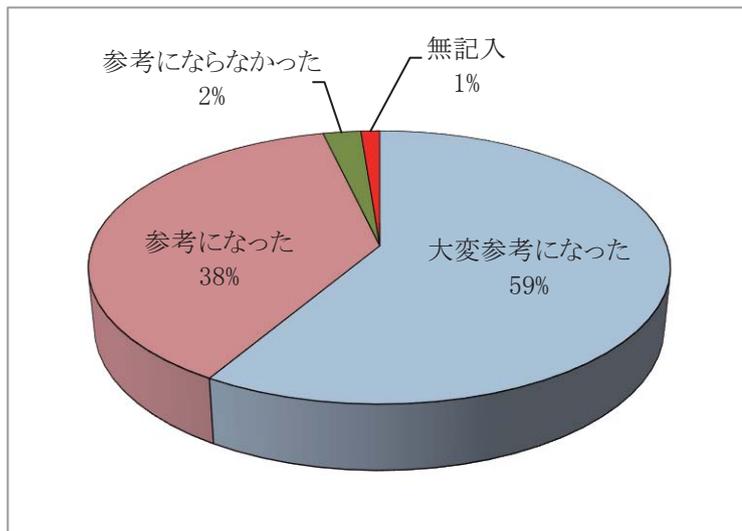
- ・ 学校訪問に行くこともあるので、学校としてやらなければならないこと、法律がよく理解でき、とても参考になりました。
- ・ 教育とはかかわりがなかったので意識してこなかった。初めて聞く話が多く、これからの福祉と教育の連携は大事になっていくということを感じた。
- ・ 教育の視点から様々な考え方や支援の課題があることがよく分かった。
- ・ 業務上、特別支援学級とも特別支援学校ともかかわる機会がとても多く、現状や今後の課題など、見えてくる部分が参考になりました。正直、学校の対応に不満を持つこともあったが、現場の現状や仕組みを知ると納得できることもありました。
- ・ 合理的配慮からのアプローチではなく、指導要領からのアプローチはとても参考になりました。また寺山さんの質問内容がよく、フリースクールが子供の教育権を守っているという認識ではないのか!!というのは、正直驚きました。
- ・ 新聞など(地方新聞)を交えて、お話しいただいたので、知らなかった情報も多々あり、わかりやすく、興味深かったです。
- ・ 特別支援教育での問題と改善点をデータなどを使い分かりやすく説明してくださっていたと思います。
- ・ 福祉は厚労省の管轄でなかなかお話を聞く機会がないので聞けて良かった。豊ダイは学校とのかかわりが深く、また保育所等訪問支援もしており、また保育所等訪問支援もしており、学校側や保護者へ話をする際の役にかなり立つと思う。
- ・ 特別支援教育も変わってきてるんだと感じた。私の知っている小中学校の様子を見ていると、ついていけないように思う。学習指導要領に沿って、教育が受けられるようになればと思った。
- ・ 文部科学省の方に直接話を伺う機会がないので、参考になりました。改定の話を実タイムに最新な状態で聞けたので良かったです。児の話であったため、直接施設に戻って役立てることは難しいかもしれないけど、知識として頭に入れられてよかったです。

※他に54件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

発達障害福祉行政の展望（日誌 正文氏・松上 利男氏）

1	大変参考になった	48
2	参考になった	31
3	参考にならなかった	2
	無記入	1
	合計	82



「大變参考になった・参考になった」の理由

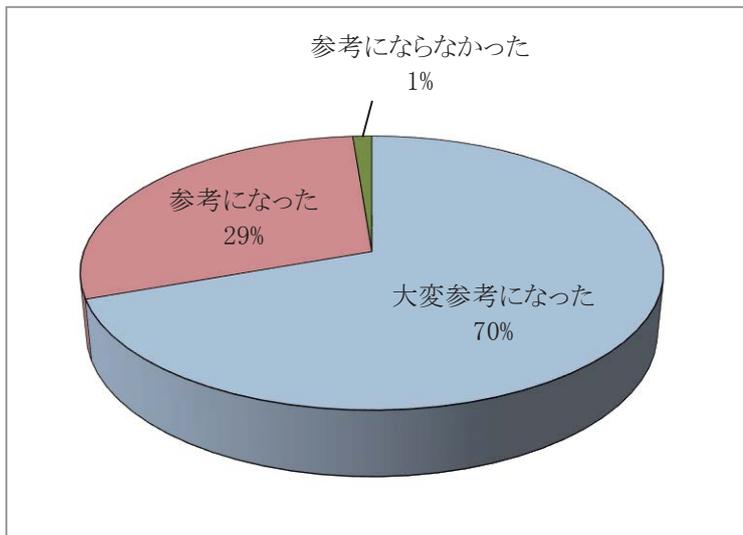
- ・ “リアルさの共有”まさにこのことが当事者支援においては重要。現場でもこのリアルさを共有することが大切だと感じている。
- ・ 1人の障害を持つ子に、親・兄弟だけでなく、様々な社会・地域のほうが携わり理解し、引き継いでいく子とで、その子らしく生きていける環境を見出していけることがわかりました。
- ・ 今、どのような方向性でどのような政策が行われていくのか、また、今後どうなっていくのかイメージができた。対談では、実際の困っている課題があり、対策などについても双方のすり合わせや連携が非常に大切と理解できた。
- ・ 行政として、発達障害福祉についてどう考え、どう進めようとしているかを知ることができた。
- ・ 切れ目のない支援、引き継ぎが大事ともわかっているが、難しいのが現状であることは、私の施設でも同じであると感じた。
- ・ 今後の行政の動きがとても分かりやすかったです。外部との多岐にわたる連携が必要なことがとてもわかりました。
- ・ 対談でリアルな質問もあり、現場にいるとなかなか知ることのできない内容を知ることができた。
- ・ 福祉分野に限らず、病院、公共施設等、関わりを持つ人がチームとなってやっていくために、法律を知り言葉、意味を理解していく体制が、大事だとわかりました。
- ・ 法制度の現在と今後について理解を深めることができた。また、対談における内容が参考になり、新たな視点に気付くことができた。
- ・ なんとなく知っている障がいについての法律を再度くわしく学んでみようと思った。また、行政が考えておられる内容が、私たちの支援と本当に密に同じ方向に向いていることが確認できました。

※他に49件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

対人援助の基礎となるもの（五十嵐 康郎 氏）

1	大変参考になった	57
2	参考になった	24
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	82



「大変参考になった・参考になった」の理由

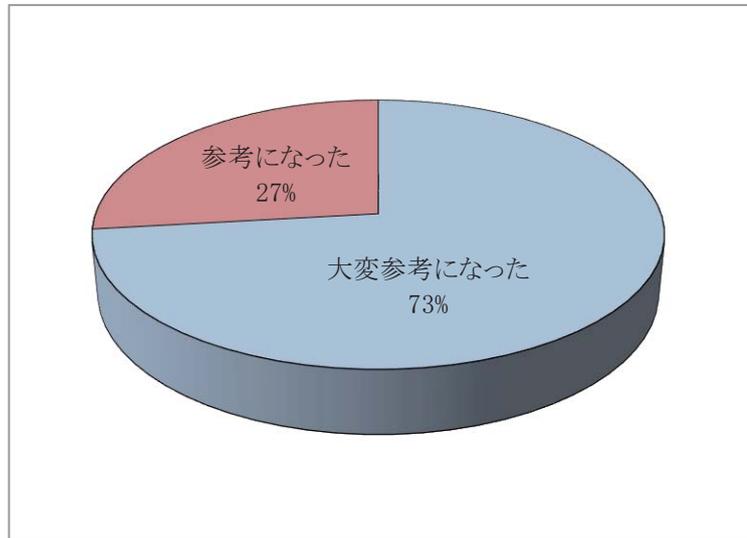
- ・多くの事例から、寄り添って利用者に関わっていくことの意味や大事さを強く思い、参考になりました。
- ・現場をされてこられたからこそその視点に共感し、これからまだまだ自分が取り組むべきことがたくさんあると思いました。
- ・支援者の根となる大切なこと、まず人として・・・ということの大切さがわかりました。事例もとても勉強になりました。
- ・実践的な内容で、また、とても考えさせられる言葉が多く、今の支援を見つめ直していきたいと思いました。
- ・事例やエピソードから具体的実践が理解できた。技術の前に人として向き合うことの重要性を再確認できた。
- ・事例をもとに、細かい支援法と結果を多々お話しいただけたのが参考になりました。自分の中での引き出しが増えてよかったです。
- ・冒頭のやまゆり園事件のお話から支援者としての在り方、SVとしての在り方が明確になった。また、たくさんの事例・エピソードが聞けて現場で実践できそうな内容が多かったです。
- ・ものすごくよかった。日々感じていることがまとまっていて再認識できた。事例の具体的な支援例と、その理論や根拠が示されていてとてもためになった。
- ・自分自身がこの職に就いたときのことを思い出し、対人援助の基礎、大切な部分を学びました。
- ・障害者と周りの関係性等を、事例を通してお話しくださり、その都度1人ひとりの障害者の特性を考えて対応する、その人に合った支援の重要性を改めて感じられた。

※他に52件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

親として専門家に期待すること（今井 忠 氏）

1	大変参考になった	60
2	参考になった	22
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	82



「大変参考になった・参考になった」の理由

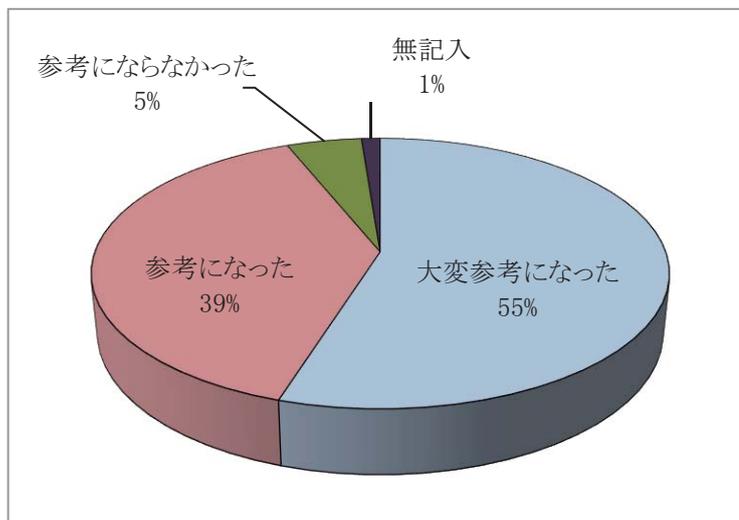
- ・「よくある逆効果の指導、関わり」「悪い癖のベテラン職員の振る舞い」が、自事業所の問題点としてあり、私が今後どうするか、考えさせられました。戻ったら、すぐできることから、修正していきたいです。
- ・今までの保護者の方との関わりの中では、これほどしっかりと保護者の方のお気持ちや考えを聞くことはなかった。現場に戻ったときに、ほかの職員へも伝えたい。
- ・親としての見方、親から見た支援員への要望と意見を率直に話されて改めていろいろと考えさせられた。
- ・経験を積んでいくと、大部分は間違っていないが、支援員の思い込みで支援をしている部分が増えてしまう。本日の講義では、支援の基本的なポイントを振り返り、改めて相手の視点に立つことの大切さを確認できた。
- ・支援者としての在り方を、すごく考えさせられました。人生を預かっているということを忘れずにしていかなければいけないなと思いました。
- ・施設職員は、知らないだろう、気づかないだろうと思っていた支援者のこと、実は分かっていたのですね。悲しくなります。まったく当てはまる人がいます。少しでも良い支援のできる職員が増えるよう、勉強して、広めていきたいです。
- ・実際のエピソードやお写真を使われての講義だったので、とても想像しやすく参考になった。良い支援って何?のミニワークも大変参考になった。
- ・職員の専門性の欠如がもたらす影響(2次障害)はすごく大きなものであると実感した。
- ・保護者の立場で、支援員や教員に求めていることを直接うかがえてよかった。利用者の方への接し方がしっかりしていれば、保護者の方も感じていただけると思いました。
- ・テクニックの前に面白さを教えてほしいという言葉にとっても感動しました。

※他に53件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

当事者からのメッセージ（冠地 情 氏）

1	大変参考になった	45
2	参考になった	32
3	参考にならなかった	4
	無記入	1
	合計	82



「大変参考になった・参考になった」の理由

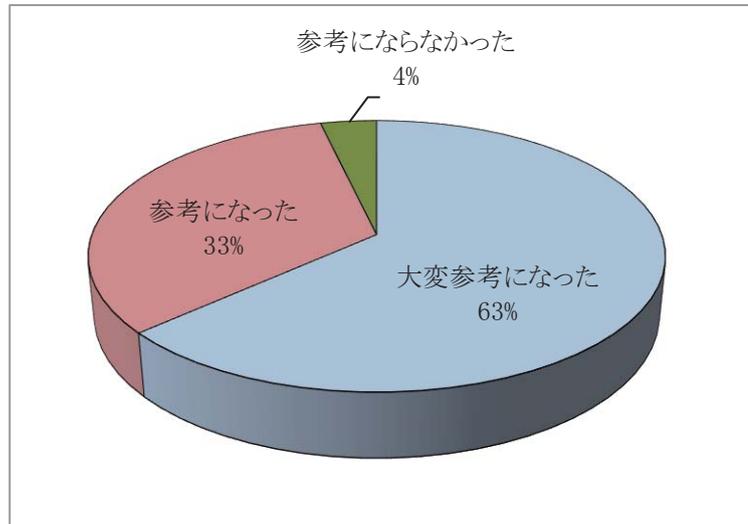
- ・ 今まで当事者団体に関わったことがなく、ワークショップがどんなふうに行われるのか興味を持ちました。本人さんの生きづらさに共感できるような支援を行っていきたいと思いました。
- ・ 自分が勝手に想像していた内容があり、最初の方は正直、何の話か分からなかった。冠地さんが「ハートで感じて」と言われた意味が、途中で、ようやく理解できた。ワークショップという手段がとても有効だと感じました。もっとも当事者の思いを知りたいと思った。
- ・ 自分たちが考えていたスローステップより、さらに細かいステップで段階を準備したほうが良いことを感じた。
- ・ 当事者からの願い、思い(想い)が詰まった講義であったように思います。その思いをお聴きする機会がなかなかなかったため、とても参考になりました。
- ・ 当事者である冠地さんからのお話は、分かりやすく、また心に響くものがありました。「生き辛さ」について、改めて考えさせられました。
- ・ 当事者の困り感であったり、どのような点で一步踏み出せないのかが具体的に想像ができた。また、こちらの当事者への共感がとても大切なのだという認識を持てた。
- ・ 発達障害を持つことのリアルな声を聞いて良かったです。現場としての思いと、当事者とのズレが生まれているのだということを直に感じられて参考になりました。
- ・ 人の思いはそれぞれなんだと改めて考えさせられた。したい支援をするのではなく、その人の気持ちを知る努力をしないといけないと思った。
- ・ 当事者の方からのメッセージは重要である。そこを知らずして支援はできないと思う。
- ・ 当事者からのメッセージということで、とても分かりやすく、人から理解されにくい発達障害の方は、こういう風に思ったり感じたりしているんだなあ参考になりました。

※他に53件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

発達障害支援の現状と課題（和田 康宏 氏）

1	大変参考になった	52
2	参考になった	27
3	参考にならなかった	3
	無記入	0
	合計	82



「大変参考になった・参考になった」の理由

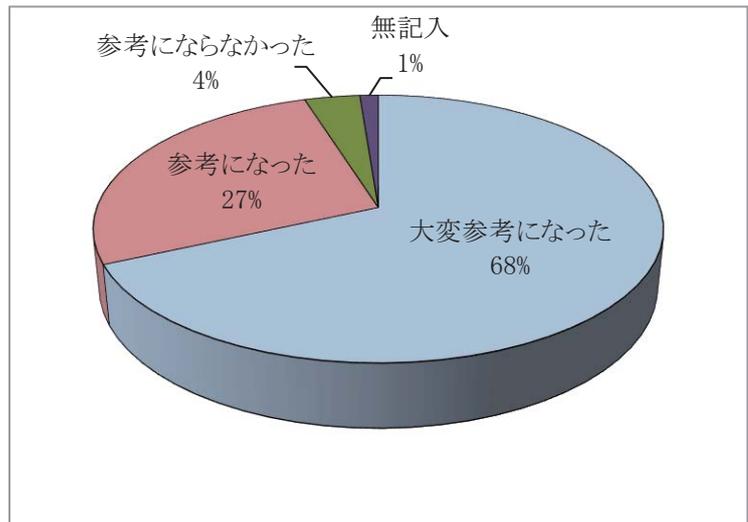
- ・各ライフステージでのつまずきを見るときに、当事者が置かれている環境・状況を、当事者視点で分かりやすくまとめてあって、説明が分かりやすかった。
- ・観察のポイントなどとても参考になりました。知的障害をほとんど伴わない発達障害の児童の利用も増えてきているので、いろんな機関とうまく連携していければと思いました。
- ・施設等ではなく、地域で感じている発達障害支援の現状と課題を知ることができた。
- ・センターでの現状と、関わり方がよくわかりました。もっと話を聞きたいくらい事例は参考になりました。
- ・相談業務は普段関わりがないのですが、こんなことをされているのかと参考になりました。連携もすごく取れていることにびっくりしました。
- ・相談の中でも、生きづらさを感じている方の増加、グレーゾーンの方という相談が増加している現状がよくわかりました。
- ・それぞれのライフステージ特有の相談の現状を知ることができた。どのライフステージにおいても特性を理解すること、その時々困っていることを受け入れることの重要性が理解できた。
- ・知的障害の伴わない発達障害の方が多くいて、その方への支援が重要であることがわかった。ライフステージ毎の現状。
- ・発達障害支援センターの現状などとてもわかりやすかったです。発達障害の方への支援には、様々な分野での協力や理解が求められていることがわかりました。
- ・発達障害支援センターへの相談が多く、未診断の方からの相談が意外にも多いことがわかる。またセンターの仕組みや役割も理解できた。

※他に50件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

自閉症の動作法（森崎 博志 氏）

1	大変参考になった	56
2	参考になった	22
3	参考にならなかった	3
	無記入	1
	合計	82



「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・ “動作法”というものを初めて知りました。成人でも成果はあるとのことなので、実践してみたいと思いました。
- ・ 以前から動作法に興味があったのですが、簡単な動作にもいくつも狙いがあり、動作法には心のつながり、生活の改善がみられるetc.有効なやり方だと知れたことがとても参考になった。
- ・ 今、事業所で動作法は使っているのですが、とても参考になりました。その日の利用者の状態に合わせて、進めていきたいと思えます。
- ・ 映像もあり、1つひとつ細かくお話してくださり、とても分かりやすく参考になりました。共感させていただくことが多く、早く利用者に会いたいと思うような講義でした。
- ・ 言葉だけでなく、目線、体の動きで訴えかける。目線を合わせられる(集中できる)テンポを合わせようとするなど、実際に一対一で向き合って伝えること、やり取りをすることの重要性を感じた。
- ・ 事業所で動作法を取り組み始めたところです。少しずつ変化が見られています。理論から実践がよく理解できました。今後もしっかり取り組んでいこうと思います。
- ・ 自閉症への動作法というテーマで講義や映像を交えながらお聞きできたのが良かったです。先生の経験から得られた子供と通じ合えた、つながった、という感覚を大切にという部分が印象に残りました。
- ・ 動作法という身体を使っての発達へのアプローチという今まで自分の中になかった方向からの支援方法を知ることができた。
- ・ 動作法のことばかり、気持ちや目を合わせることが日常生活にどう活かせるのかが勉強になった。
- ・ 動作法とだけ聞いて、自閉症への支援とは関係ないような印象を持っていたが、話を聞いていくうちにすごく納得した。絵カードや写真だけでの支援にとらわれていたが、身体を通した支援は、カードだけでは伝えることが難しいことを育む、すごい方法だなと関心が持てた。「繰り返しやり続ける」ことがキーワードだと思った。

※他に53件の記述がありました。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修 アンケート集計結果(後期)

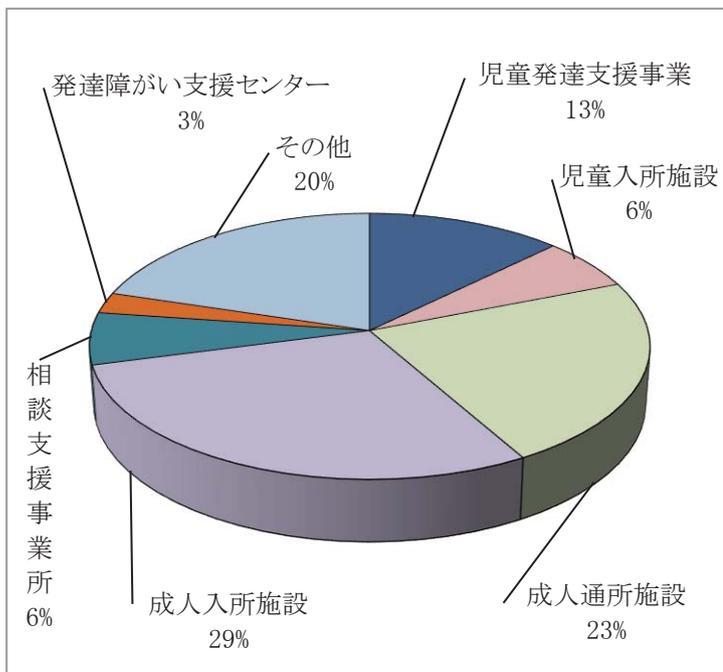
【ご参加された方の情報について】

所属

1	児童発達支援事業	10
2	児童入所施設	5
3	成人通所施設	18
4	成人入所施設	23
5	相談支援事業所	5
6	発達障がい支援センター	2
7	その他	16
	合計	79

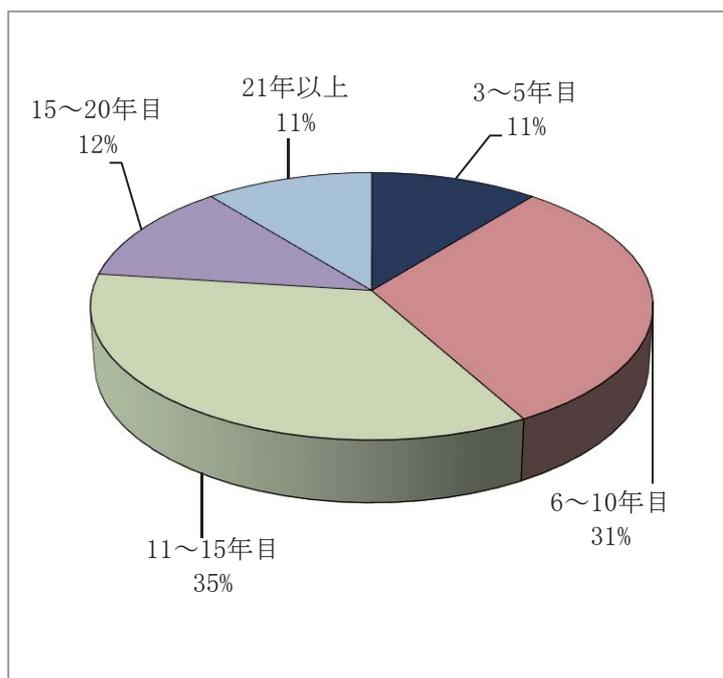
(所属が2ヶ所以上が4件あり、記述なし1件)

その他所属	
放課後等デイサービス	2
病院	0
グループホーム	0
就労移行支援	0
障害者多数雇用事業所	0
生活介護事業所	1
児童発達支援事業所	1
療育事業所(自主療育)	0
記述なし	4



経験年数

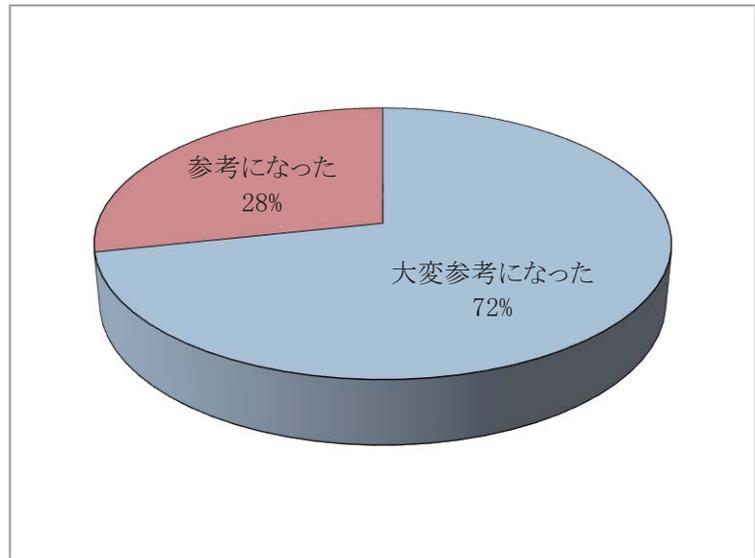
1	3～5年目	8
2	6～10年目	23
3	11～15年目	26
4	15～20年目	9
5	21年以上	8
	無記入	0
	合計	74



【講義のテーマ・内容について】

行動問題についての応用行動分析（井上 雅彦 氏）

1	大変参考になった	53
2	参考になった	21
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	74



「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・現場で、利用者の方の行動について意見を出し合う機会がなかなかなく、うまく進めることができていなかったもので、大変参考になりました。
- ・現場で実際に起きる事例などを挙げながらの講義で説得力があった。ストラテジーシートの活用法がわかりやすく説明されていた。
- ・現場での進み方に則して演習形式でご説明いただいたので、大変参考になりました。
- ・行動障害に対する分析、対応の仕方、また怒らなくて済む工夫や環境調整の考え方等学べた。
- ・行動問題のある自施設の利用者を思い浮かべながら受講しました。以前なら本当に改善されるのか?と半信半疑だった私でしたが、このSV研修で変わり、いち早く活用したいと思えました。
- ・実際に現場で活用することのできる実践的なことを学ぶことができた。現場でのミーティング時などにぜひ試してみたいと思います。
- ・実際の現場でも、この分析を取り入れ始めています。今回学んだことも含め、また現場で実践してみたいと思います。
- ・問題行動とは、誰にとつての問題行動なのか、どういった場面で問題行動になるのかということあまり考えたことがなかったため、発想の転換というのは大切だと思いました。また、ストラテジーシート等もよかったです。
- ・臨床現場で明日から課題解決に活用できると思います。チャレンジしてみます。
- ・支援者、親、本人の立場になって、問題行動1つ1つを検証し、職員の共通認識へと変化させる作業を実行したいと思った。

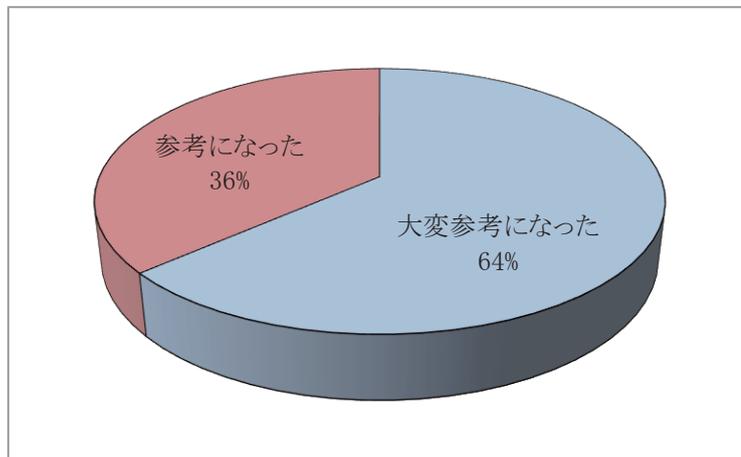
※他に37件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

TEACCHアプローチの統合的な考え方：構造化による支援のパラドックス

(スティーブ・クルーパ 氏 ・ 訳者：田中 恭子 氏)

1	大変参考になった	47
2	参考になった	27
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	74



「大変参考になった・参考になった」の理由

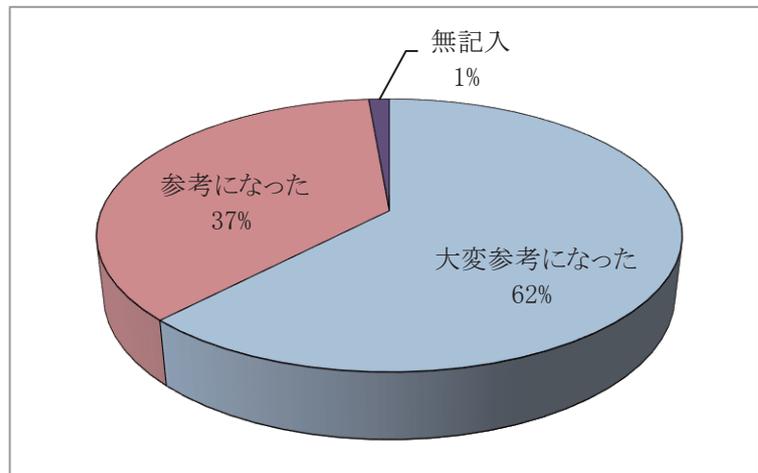
- ・ TEACCHの考え方が周りでは技術的なことばかりにスポットが当たっていて関係性のことが言われず、気になっていたところ、今回の研修で、“よかった!!”と思いました。
- ・ TEACCHの考え方の中で、関係性について話をされたのが新鮮だった。新しい側面が見えた。
- ・ TEACCHの捉え方が人との関わりを前提にした、というところが加わり、イメージが変わった。
- ・ 以前はTEACCHプログラムは、「構造化」「視覚化」がメインで、支援する人のことは語られていなかった。講義で、人間性が大切なことを知った。
- ・ 構造化のいろいろな例を紹介してもらい、現場に帰っての支援のヒントになった。ぜひ支援の中に取り入れていきたい。
- ・ 自閉症者支援は関係づくりがベースとなって、構造化がいくてくるのが改めて認識できた。保護者もチームの一員にということが印象的だった。
- ・ 自閉症の歴史から始まり、関係性を重要視したアプローチの重要性等の話を聞き、新たなTEACCHプログラムの発見がありました。
- ・ ずっと勉強してきたつもりでしたが、関係性や柔軟性をあんなに話すTEACCH部の先生は初めてでとても新鮮でした。技術はすぐ学べます。パラドックスの視点でTEACCHを聞ける機会をうれしく思います。
- ・ 療育の内容プラススタッフや利用者さんとの関係性ベースの重要性、人としての関わり、専門性、総合的な発展的なお話だった。
- ・ スティーブ氏の言われるTEACCHアプローチの考え方・構造化による支援法に対する歴史が受け継がれていかなくってはならないことを感じた。

※他に39件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

発達障害を巡る諸問題（山崎 晃資 氏）

1	大変参考になった	46
2	参考になった	27
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	74



「大變参考になった・参考になった」の理由

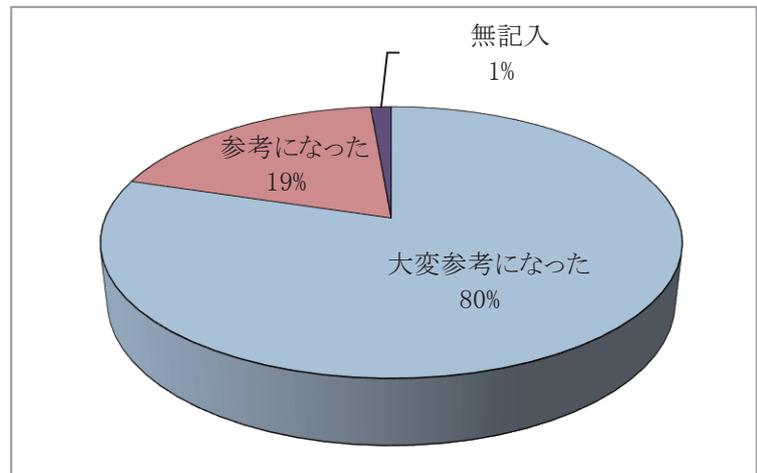
- ・「人」を「人」として見ていく当たり前の視点をとても大切にされている姿に感銘を受け、先生の思いをもっと今の医療の現場、福祉にも活かしていきたいと思いました。
- ・DSM-Vについて、わかりやすく、詳しく教えていただき、また、ご自身の経験や事例もお話していただき、大變興味深く聞かせていただきました。
- ・医学的な立場でありながら、しっかりと心を見るというのは、安易なレッテル貼りをしてしまっているかもしれないという振り返りとなった。
- ・医師の立場からと長年の経験から、最近の安易な診断傾向を詳しくお話していただき、普段聞くことのない情報でとても参考になりました。
- ・これまでに長く発達障害の分野に携わってこられた経験の中から、熱心な思いをお聞かせいただいた。自閉症の人々は「成長」し続けているという言葉が心に残った。
- ・診断の段階で問題があることについては驚いた。診断にとらわれず観察力が大事になってくると感じた。
- ・精神科の先生の視点の講義は今まで経験がなかったため、大變参考になりました。特に診断を行うのに心が必要というお話が印象的でした。
- ・長年発達障害の方と関わってきたこと一つ一つのことがとても貴重なお話で、情熱を感じました。時代が変わっても、山崎先生の思いを少しでも繋いで行ける一人になりたいと思いました。
- ・ベテランの先生でさえ、今も迷い考え続けていることが、毎日、相談を受けて“これでよいのか”と悩む私にとって、迷い悩むのは当たり前なんだ思い、前向きになれました。
- ・子どもの長所を伸ばし(見出し)、じっくりと観察する考え方は、いつ聞いても勇気づけられます。

※他に35件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

発達障害の就労支援（梅永 雄二 氏）

1	大変参考になった	59
2	参考になった	14
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	74



「大變参考になった・参考になった」の理由

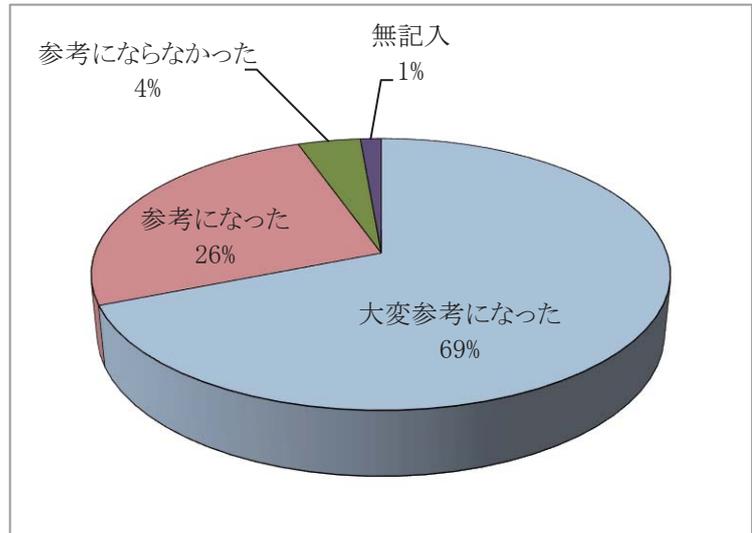
- ・ アスペルガーに主を置いた話であったが、社会に出て問題になる点、どういった部分が働いていく上で必要になるのか、わかりやすく説明されており、参考になった。
- ・ 一般就労している発達障害者の様子、問題点、周囲のサポートの様子など、実際の様子をDVDで知ることができ、大變感心深かった。
- ・ 今の仕事で直接就労支援に関わってはいませんが、私の施設の利用者の方も、就労を目指せるのではないかと感じました。
- ・ 社会に発達障害の理解が広がっている現実を知ることができうれしかった。特に富士ソフト会社のサポートは、私たちが見習わなければならない程、素晴らしいもので驚いた。
- ・ 就労=技術というのが今まで強かったため、生活スキルの習得の大切さ、支援の必要性がわかった。
- ・ 就労に関してここまで、バックアップしているということは知りませんでした。素晴らしい企業も多いことをうれしく思いました。全体を通しとても分かりやすい内容でした。
- ・ 就労について様々な困難があると思いました。今までに仕事場にADHDの方が就労することもあり、梅永先生の話のポイントをよく理解した上で受けられたらと思いました。
- ・ 職場実習を行う中で、サポートブックを作成、本人、事業主が共通理解し、課題に取り組むことが大事であること。
- ・ 何度聞いても大事な話!!ハードスキルとソフトスキルを意識して、これからも発達障害の子たちと接していこうと思いました。
- ・ 幼児の保護者の方が将来の就労のことをとても心配されていることもあり、今回聞かせていただいたお話を参考にして一緒に考えていきたいと思います。

※他に39件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの役割と事例検討の進め方（近藤 直司 氏）

1	大変参考になった	51
2	参考になった	19
3	参考にならなかった	3
	無記入	1
	合計	74



「大変参考になった・参考になった」の理由

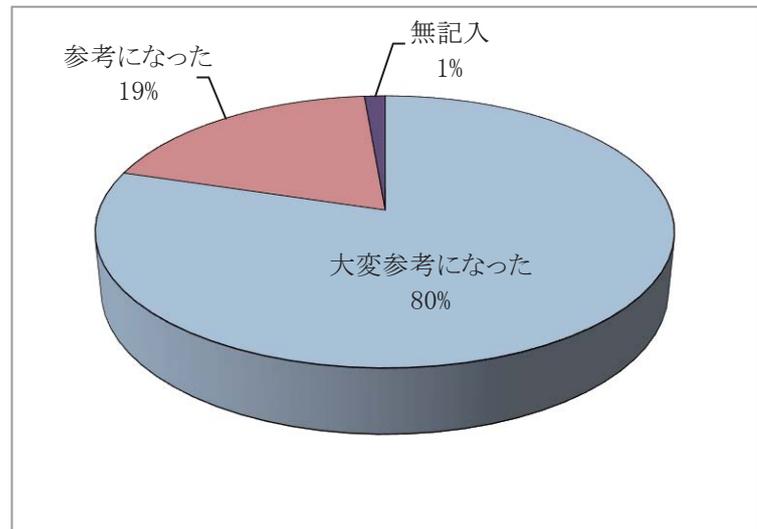
- ・アセスメントシートの大切さと、それによるより良いチーム向上へつながるプロセスの大切さを考えるきっかけとなった。
- ・アセスメントの力を高める具体的な方法、フォーマット、技法がとても実践的で、素晴らしい内容を学ぶことができました。専門的な部分をわかりやすく、演習で具体的に学びました。
- ・アセスメント力不足を痛感した。グダグダ会議にならない情報のまとめ方は、今後の自分の課題となった。
- ・会議をスムーズにすることにとっても悩んでいましたが、頭がスッキリした感じです。ぜひ活用します。
- ・グループワークで他施設の方との話し合いの中で参考になることが多かった。必要な情報のまとめ方が知ることができた。
- ・現場に帰ってすぐに実践できることを学べ、充実した時間となった。アセスメント方法の一つとして、現場に帰って紹介できたらと思う。
- ・スーパーバイザーの役割と事例検討の進め方について学び、現場で活かせる内容であった。
- ・どこにポイントを置いて、進めていけば、スムーズに話し合いが進むのか、検討を行うことで理解できた。
- ・一人で宿題としてやっていた時はあまりしっくりこなかったが、皆でやってみて、非常に良い手法であり、実際の現場へも持ち帰り使ってみたいと思った。
- ・まとめ方、考え方、伝え方、それぞれに結果とゴールを見据えた考えが必要なことが、顕著にわかった。

※他に45件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

発達障害のある子どもの子育てと大人になった今（橋口 亜希子 氏）

1	大変参考になった	59
2	参考になった	14
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	74



「大変参考になった・参考になった」の理由

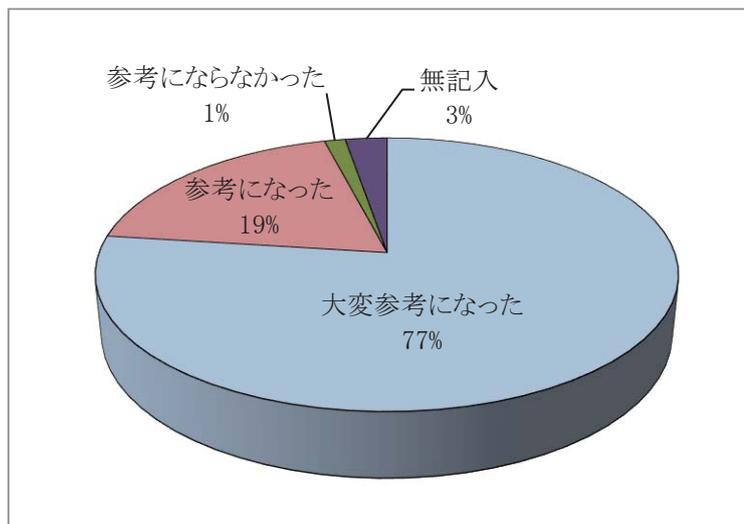
- ・改めて支援者としての重責、重みを痛感する機会となりました。
- ・親としての思いや考えが伝わり、自分自身の支援を見直さなければならぬと思った。
- ・親の立場としての熱い思い、ずっと寄り添い向き合ってきた様子が心に響いた。たくさんの方の名言、息子さんが言ってくれた言葉を私は心に刻んでまた明日からの支援に取り組んでいきたいと思う。
- ・親の立場より、言いにくいことを言っていただけ、本当に参考になりました。母親の心も考慮できればと思いました。
- ・支援者とご家族の関係は、1番重要だけれど難しいと感じていたため、保護者の方の思いを改めて感じる事ができてありがたかったです。
- ・支援者としては、なかなか押し量ることのできない保護者としてのストレートな気持ちをお聞きすることができて、心に響きました。
- ・当事者の親としての本音を貴重な思いで拝聴できた。すべての講座に通じていると感じた。
- ・当事者の保護者としての思い、様々なことがとてもよく感じ取れ、日々の支援をしている保護者の方と重なりました。(感動で)涙しながら聞きました。
- ・当事者の保護者の話は何度もお聞きする機会があったが、こんなにすんなり自分に入ってくる話はなかった。自分の立場でできることが明確にわかった。自分の立場でできることが明確にわかった。本当によかった。また聴きたいと思いました。
- ・胸に刺さる話でした。成功の話だけではない、苦しかった思いというのは聞いていて本当に「こういう支援をしなければ」という思いになりました。いい話を聞くことができました。ありがとうございます。

※他に45件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

スーパーバイザーに求められるスタンス（五十嵐 猛 氏）

1	大変参考になった	57
2	参考になった	14
3	参考にならなかった	1
	無記入	2
	合計	74



「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・ SVとして、寄り添い、共感を大切に、支援をしようという気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・ いろいろな発想と展開、ニーズに添った事業の必要性について勉強になった。
- ・ 大分県のコミュニティーのあつさにおどろきました。ネットワークの必要性も伝えていただけ参考になりました。
- ・ このSV研修で出会った人々、ネットワークづくりの機会を今後十分に生かしていきたい。頑張っていこうと意欲がわいてきました。本当にありがとうございました。
- ・ 自閉症支援はいい保育であるという言葉は非常に印象に残った。
- ・ 社会性の課題と問題点など、職員を守る働きやすい環境を整えていくことが大事なんだと思いました。
- ・ どういう社会を作っていきたいか、ビジョンがしっかりとあり、それを実現するために様々な取り組みを行っている。何より熱い思い、自分のこととしてとらえる力は素晴らしいと感じた。
- ・ まとめという形で、スーパーバイザーに対してのエールや、経験を通してのお話がとても参考になりました。
- ・ 連携の必要性を改めて感じた。また、課題も見えた。活かせる場面を増やせる支援を心がけていきたい。
- ・ 先駆的に進められている事例や支援員としてスーパーバイザーの研修を受ける意味を改めて感じる事ができてありがたかった。

※他に41件の記述がありました。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修 アンケート集計結果(アドバンスコース)

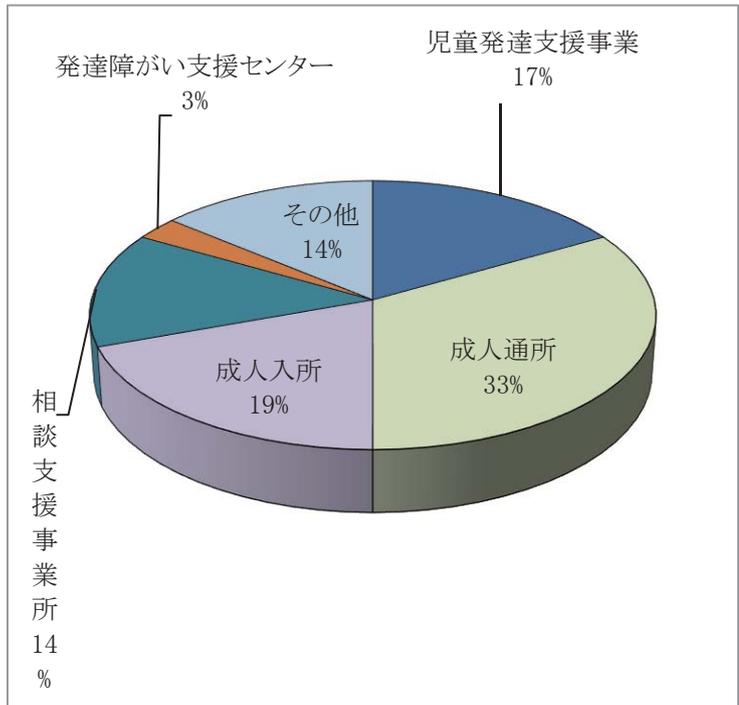
【ご参加された方の情報について】

所属

1	児童発達支援事業	6
2	児童入所	0
3	成人通所	12
4	成人入所	7
5	相談支援事業所	5
6	発達障がい支援センター	1
7	その他	5
	合計	36

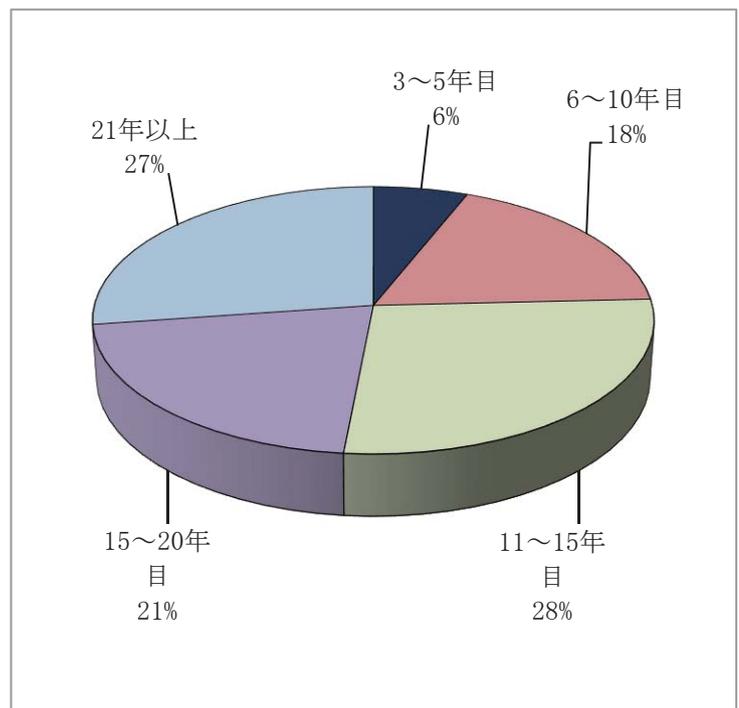
(所属が2ヶ所以上が3件あり)

その他所属		
	行政子育て支援事業担当	0
	公務員	0
	小学校	0
	多機能(児童発達支援事業、放課後等デイサービス)	0
	無記述	1



経験年数

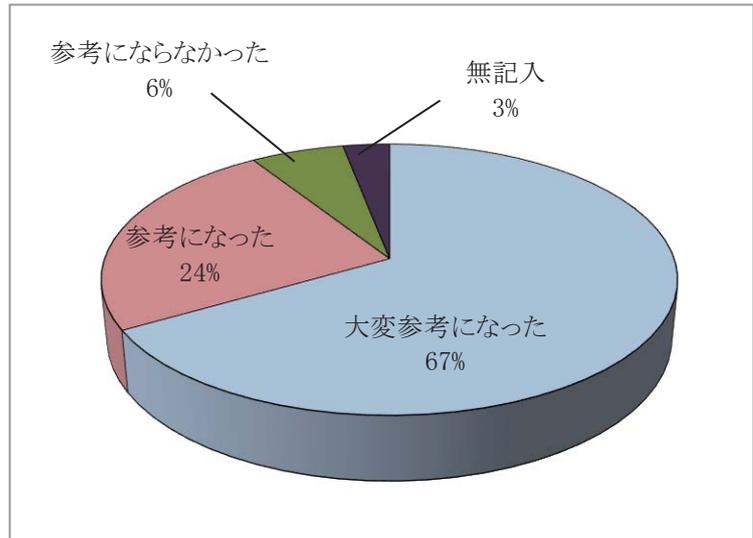
1	3～5年目	2
2	6～10年目	6
3	11～15年目	9
4	15～20年目	7
5	21年以上	9
	無記入	0
	合計	33



【講義のテーマ・内容について】

事例に基づくスーパービジョン（小林 真理子 氏）

1	大変参考になった	22
2	参考になった	8
3	参考にならなかった	2
	無記入	1
	合計	33



「大変参考になった・参考になった」の理由

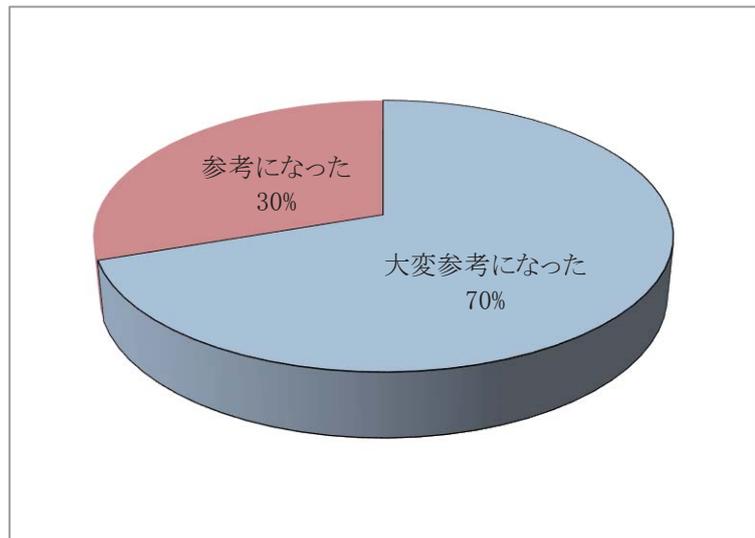
- ・演習が勉強になりました。スーパーバイザーの役割がどういうものなのか、また、ビジョンの進め方など、大変貴重な時間を過ごさせて頂きました。スーパービジョンのモデルの資料が欲しかったです。
- ・ケースに対する振り返りを、SVを交えてわかりやすく聞くことができた。
- ・事例検討を通して様々な視点、立場からの考え方を知り、とても学びがありました。
- ・事例のスーパーバイズを通して、支援者にとって大切な視点を多くの方から学ぶことができました。
- ・事例を通してのグループワーク内での各々の状況、状態をリアルタイムで分析、解説していただくことで、スーパーバイザーとしての役割、留意点などわかりやすく理解できました。
- ・事例を基に演習させていただき、スーパービジョンをどのように進めていくかを考え直していき、何度も継続していく大切さが学べました。(経験値を積む等)
- ・スーパービジョンの形態がいろいろあり、現場においては目的に応じて対応していくことになるが、環境調整と対人関係重視の両方を行うメタスーパービジョンが必要という、大きな観点を得られたこと。
- ・スピード感のある講義で、頭をフル回転させました。まだまだ学んでいかなければ…と思いました。
- ・前回の研修でケース会議の行い方を学んで、今回の研修で実践できたのが良かった。3つのモデル(生物、心理、社会)について分けて考える訓練をする機会にもなった。
- ・母子手帳の読み取りは、Auの初期症状を捉える感度を磨く意味でとても良かった。発表3事例を「全て事前に読み込んできました」という姿勢、コメントも丁寧で学ぶべきものがありました。

※他に16件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

発達障害者の意思決定支援（大塚 晃 氏）

1	大変参考になった	23
2	参考になった	10
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	33



「大変参考になった・参考になった」の理由

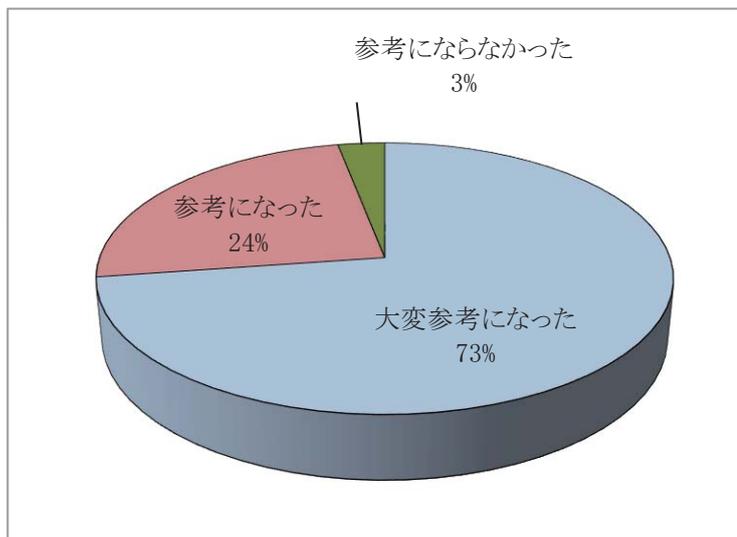
- 意思決定支援というこれまで漠然としてしか考えていなかったことについて、具体的に理解できた。今後取り入れていきたい。
- 意思決定支援は、本を読んでもなかなか理解できず、職場の仕事に返すことができずに悩んでいました。今回考え方のヒントをもらえたので、また帰って頭の中を整理してみます。
- 意思決定は難しいと思っていたが、友人作りとこちらの支援能力というところで納得できた。ガイドラインがあることを知らず、不勉強だったと反省した。
- 改正に携わった方の直接の講義だったので、思いなどが伝わってきました。私たちがどう関わるのがとても重要であるか、求められる能力はなどが理解できました。
- サービス等利用計画と個別支援計画の整合性の重要性、意思決定支援に基づいた計画作成も進めていきたいと思います。
- 社会の障壁は実は私たち自身の中にあっただのかもしれないと思いました。
- 誰を主役として支援するのか、そのポイントを理解し支援していく大切さを改めて確認できました。
- 法的な見解だけでなく、現場の実情を踏まえての講義であり、自分のことと照らし合わせて考えることができた。法としての課題といった視点もいくつか講義の中で話してもらい、意識して考える機会になった。
- 本人が中心にいて、本人の思いを大切にされた支援がなされているかどうかを考えさせられた。
- まず、ノーマライゼーションがまるまでできていないという状況がよくわかりました。そして、その延長線上にある意思決定支援は、課題が山積みしているという事がよくわかったので。

※他に14件の記述がありました。

【講義のテーマ・内容について】

発達障害がある子への支援（中山 清司 氏）

1	大変参考になった	24
2	参考になった	8
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	33



「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「評価」について、実際に体験させていただき、あっという間の1時間30分でした。
- ・アセスメントが根拠になる、本人の理解をきちんと把握することが本当に大切なのだと感じました。
- ・アセスメントをして、その後の支援計画→実施をするが、細かい評価をしていないと感じました。期限を決め、評価、プランの見直しをやっていきたいと思います。
- ・あっという間に終わってしまった。評価キットのところをもっと聞きたかった。評価の大切さを再度認識しました。ご本人に合った評価にもっと時間をかけていこうと思いました。
- ・子どもへの視点を改めて見直す良い機会となりました。ビデオを用いた講義はわかりやすかったです。
- ・コンサルテーションやスーパーバイジングといっても、基本にすべきこと(評価に基づいて、P-D-C-Aサイクルをまわす)はシンプルで、いつもその基本に立ち返ったらいいということがわかったから。
- ・動画を通して実際の評価を学び、間違った評価が問題行動を誘発してしまうことを再確認しました。ありがとうございました。
- ・評価から支援という意味での、アセスメントから実施するアプローチが大切と感じました。
- ・評価の大切さ、改めて感じました。またインフォーマルな評価の今までの不十分さを痛感しました。評価セッションを現場でやってみたいです。
- ・本当にちゃんと評価することができるのか、振り返る必要があると思いました。評価キット、とても具体的でわかりやすく、活用したいです。

※他に16件の記述がありました。

シンポジウム 「発達障害支援スーパーバイザーに求められるもの」

コーディネーター(松上 利男 氏 ・ 日詰 正文 氏 ・ 橋口 亜希子 氏 ・ 五十嵐 猛 氏)

- ・ 「スーパーバイザーに求められるもの」について、自分に有るもの、無いものを振り返る良い機会となった。
- ・ 4人の先生よりスーパーバイザーがこの後どのように行動すればよいのか考え方を導いて頂き、本当にありがとうございました。
- ・ SVとしてのあり方として、「どんな知識を持ってても、親の信頼性を得ていない専門家もいる(橋口氏)」の言葉が強く残っています。
- ・ SVとしての心得など、改めて考えるきっかけとなりました。これからも様々な人との出会いを大切にしていきたいと思います。
- ・ SVに必要な事、求められている事、考え方(捉え方)に関していろいろな立場の方の話を聞けて、それぞれの見方、感じ方を客観的に考える良い体験ができたと思っています。
- ・ いかに関心するか、一緒に協力しあうかということがよくわかった。
- ・ いろいろな視点からスーパーバイザーに求められるものについて学ぶことができてよかった。
- ・ いろいろな話を聞く中で、果たして自分はSVとして向いていないのではないかと何度も考えさせられました。自分の中に足りないもの、自分の考えの中で危険なこと、まずは、自分自身の考え方に気付くことから思いました。
- ・ 各シンポジストの方から頂いた意見を整理して、できることから、無理なく取り組んでいきたいです。(支援者も守られる存在だという言葉、振り返りながら…)
- ・ 肩の力を抜いて柔軟性を持って、落ち着いて取り組んでいくことが大切と感じました。
- ・ 聞いたことすべてが納得でした。今後利用者の方のことをしっかり把握し、仲間と共に学ぶ関係の中でスーパーバイズしていきたいと思います。
- ・ 具体的なエピソードや、夢のある実践がたくさん聞くことができ、所属法人に持ち帰り、検討してゆきたい内容ばかりでした。
- ・ 自己をよく知ることに努めます。
- ・ スーパーバイザーとして、どのようにあるべきか、様々な立場からの意見を聞くことができて、参考になった。
- ・ スーパーバイザーに求められるもの…知識、技術はもちろんだが、その根底にある支援者としての在り方、姿勢といったものがなければスタートにも立てないと思いました。
- ・ それぞれの方の思いを聞けてとても参考になりました。まだまだ研鑽しなければいけないことがよくわかりました。
- ・ 対談形式で経験のある方たちの考え方等を知る機会になりました。
- ・ たくさんのポイントや心構えが見えてくる話だったように思います。ありがとうございました!!
- ・ 知識と記録プラスアセスメント力、そして想像力と柔軟性、まだまだ学ぶことはたくさんあります。フォローアップ、これからも続けてほしいです。
- ・ 幅広く様々な角度からのお話が聞けたこと、SVとして活動することの難しさは重役とも考えていましたが、先生方のお話「できないこと」「助けてもらえる人を作っていく」などの言葉がとても自分には大きかったです。
- ・ 皆さんから事例や実践的な部分も具体的に教えて頂けたのでわかりやすかったです。
- ・ 利用者支援については職員みんなで話し合っているつもりだったが、今回の話を聞いて、もう少し力を抜いていきたいと思いました。

【研修全体を通して】

- ・ 13日の事例検討資料に書き込みをしてしまったので、回収することを事前に伝えてほしかった。
- ・ 2日間ありがとうございました。SV研修について、当事者の立場に立って支援できていない事業所、支援者の参加はするべきではないと思います。参加資格として実践レポートがあっても良いように感じました。スーパーバイザーとして与える影響は大きいのですから…。
- ・ 明日からの支援に役立てたいと思います。ありがとうございました。
- ・ アドバンスコースでは、更に学びが深くなったと感じます。全国で頑張っている支援者の皆さんとの交流も刺激になりました。所属に戻り、自治体の支援に反映できるよう努めていきたいです。
- ・ いろいろと学ばせていただき、ありがとうございました。
- ・ 自分は支援職員なので、相談の方の話などは難しかったけれどもとても勉強になった。
- ・ 事務局をはじめ、企画運営と多忙の中、ありがとうございました。
- ・ 準備、進行、運営、すべてにおいてありがとうございました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ 日々の支援に追われてしまい、ただ毎日を過ごしているので、今回学び、役割をきちんとできるようにと改めて思いました。スーパーバイザーとしての知識、技術を学べる機会ができてよかったです。
- ・ レポート提出の件が分からなかった。(あるだろう…とは思っていたが…)事例検討の用紙の回収を事前に伝えてほしかった。(大切な仕事を書き込んでいる人が多くいて、「メモを失った」と言っていました…)多大なるご準備、ありがとうございます。おつかれさまでした。

修了者名簿

H26年度 スーパーバイザー養成研修 修了者(H30年11月1日現在)

受講者 No	名 前	ふりがな	所属機関	所属(施設名)	都道府県
1	井上 真紀子	いのうえ まきこ	社会福祉法人 音別憩いの郷	生活介護事業所 あゆみ	北海道
2	塩原 あかね	しおばら あかね	社会福祉法人 侑愛会	星が丘寮	北海道
3	上川 孝一	かみかわ こういち	社会福祉法人 侑愛会	ねお・はろう	北海道
4	高橋 拓矢	たかはし たくや	社会福祉法人 はるにれの里	札幌市自閉症者自立支援センターゆい	北海道
5	古野 利明	ふるの としあき	株式会社 北海道ケア・サポート	生活介護事務所 らいと西	北海道
6	佐藤 友紀	さとう ゆき	岩手県発達障がい者支援センター		岩手
7	田中 梢	たなか こずえ	茨城県立あすなろの郷	茨城県立あすなろの郷地域生活支援センター	茨城
8	小坂 砂由里	こさか さゆり	NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび	NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび	茨城
9	川田 政文	かわだ まさふみ	社会福祉法人 身障者ポニーの会	障害福祉サービス事業所 ポニーの家	茨城
10	森 真紀	もり まき	社会福祉法人 愛信会	第二幸の実園	茨城
11	大内 弘毅	おおうち こうき	社会福祉法人 梅の里	あいの家	茨城
12	森嶋 夏希	もりしま なつき	社会福祉法人 実誠会	障害者支援施設 なるみ園	茨城
13	緒方 広海	おがた ひろうみ	さいたま市発達障害者支援センター		埼玉
14	増渕 英美	ますぶち えみ	さいたま市発達障害者支援センター		埼玉
15	及川 毅征	おいかわ たけゆき	社会福祉法人 けやきの郷	埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」	埼玉
16	土屋 一平	つちや いっぺい	社会福祉法人 緑の風福祉会	社会福祉法人 緑の風福祉会	埼玉
17	大久保 美香	おおくぼ みか	社会福祉法人 新	障害者支援施設 中新田自立スクエア	埼玉
18	加瀬 紗矢佳	かせ さやか	社会福祉法人 泰斗会	生活介護事務所 八街わらの里	千葉
19	今村 麻紀	いまむら まき	社会福祉法人 泰斗会	八街わらの里	千葉
20	片桐 亮	かたぎり りょう	社会福祉法人 嬉泉	袖ヶ浦のびろ学園	千葉
21	福岡 俊司	ふくおか しゅんじ	社会福祉法人 嬉泉	袖ヶ浦ひかりの学園	千葉
22	館山 聡	たてやま さとし	社会福祉法人 菜の花会	しもふさ工房	千葉
23	前田 潤悦	まえだ じゅんえつ	社会福祉法人 菜の花会	アーアンドディだいえい	千葉
24	井口 直樹	いぐち なおき	社会福祉法人 嬉泉	おおらか学園	東京
25	西川 輝	にしかわ あきら	社会福祉法人 嬉泉	板橋区立 赤塚福祉園	東京
26	上田 恵里子	うえだ えりこ	社会福祉法人 育桜福祉会	川崎市わーくす高津	神奈川
27	佐野 良	さの りょう	社会福祉法人 育桜福祉会	桜の風	神奈川
28	藤野 真一	ふじの しんいち	社会福祉法人 育桜福祉会	桜の風	神奈川
29	金田 圭二	かねだ けいじ	社会福祉法人 はぐるまの会	はぐるま共同作業所	神奈川
30	岸岡 信也	きしおか しんや	社会福祉法人 新川むつみ園	社会福祉法人 新川むつみ園	富山
31	辰野 聡則	たつの あきのり	社会福祉法人 つくしの会	自閉症者療育施設 はぎの郷	石川
32	黒瀬 陽亮	くろせ ようすけ	社会福祉法人 すいせんの里	支援センター すだちの家	福井
33	高野 哲哉	たかの てつや	社会福祉法人信濃の郷	障害者支援施設 白樺の家	長野
34	八木 敦子	やぎ あつこ	静岡県発達障害者支援センター		静岡
35	石田 慎吾	いしだ しんご	社会福祉法人 双樹会	ワークショップ杜	愛知
36	奥田 雅一	おくだ まさかず	社会福祉法人あゆみ	社会福祉法人あゆみ	三重
37	中村 和博	なかむら かずひろ	社会福祉法人 檜の里	ワークセンターひのき	三重
38	相羽 秀子	あいば ひでこ	岐阜県立希望が丘学園	発達障がい支援センターのぞみ	岐阜
39	平下 直樹	ひらした なおき	社会福祉法人 同朋会	伊自良苑	岐阜

40	26062	平林 啓邦	ひらばやし ひろくに	社会福祉法人 京都杉の木会	京北やまぐにの郷	京都
41	26063	木坂 佳世	きさか かよ	社会福祉法人 永寿福祉会	永寿の里 彩羽	大阪
42	26065	齋藤 克己	さいとう かつみ	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵庫
43	26066	亀山 隆幸	かめやま たかゆき	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵庫
44	26067	春田 紗希	はるた さき	社会福祉法人まほろば	三木光司園	兵庫
45	26068	藤井 幸子	ふじい さちこ	社会福祉法人 五倫会	姫路暁乃里	兵庫
46	26069	岡田 昌人	おかだ まさと	社会福祉法人 アルーラ福祉会	障害者支援施設アルーラ	兵庫
47	26070	西川 悟	にしかわ さとる	社会福祉法人 姫路潮会	ぬかちゃん福祉作業所	兵庫
48	26072	河本 真代	かわもと まよ	Autism Life Support Kure あかり		広島
49	26073	岩武 毅	いわたけ つよし	社会福祉法人 蓬菜会	社会福祉法人 蓬菜会	山口
50	26074	曾利 真弓	そり まゆみ	社会福祉法人 香川県社会福祉事業団	香川県ふじみ園	香川
51	26076	浅田 慎児	あさだ しんじ	社会福祉法人 徳島県手をつなぐ育成会	障害者支援施設ルキーナ・うだつ	徳島
52	26078	森本 恭世	もりもと やすよ	北九州市発達障害者支援センター「つばさ」		福岡
53	26080	田中 一旭	たなか かずてる	NPO法人みんなの広場とんとん	こども発達支援センターもも 認定こども園いちご保育園	大分
54	26081	渡辺 香織	わたなべ かおり	特定非営利活動法人さんぼ	こども発達支援センター あへく	大分
55	26082	越智 芳子	おち よしこ	社会福祉法人 別府発達医療センター	社会福祉法人 別府発達医療センター	大分
56	26083	園田 和則	そのだ かずのり	社会福祉法人 大分市福祉会	多機能型事業所「おおいた」	大分
57	26086	五十嵐 猛	いがらし たけし	社会福祉法人 萌葱の郷	障害者支援施設 めぶき園	大分
58	26087	野上 悦生	のがみ えつお	社会福祉法人 萌葱の郷	障害者支援施設 めぶき園	大分
59	26088	山本 良	やまもと りょう	第二つつじヶ丘学園		熊本
60	26090	佐藤 和也	さとう かずや	社会福祉法人 三気の会	三気の里	熊本
61	26092	吉田 美雪	よしだ みゆき	社会福祉法人 南恵会	しえすた・への塾	鹿児島
62	26093	野平 文香	のびら ふみか	特定非営利活動法人 たけのこキッズ	たけのこキッズ 児童発達支援センター	鹿児島
63	26094	有木 友紀	ありき ゆき	社会福祉法人 八重山会	第二ときわの家	鹿児島

H27年度 スーパーバイザー養成研修 修了者(H30年11月1日現在)

受講者 No	名前	ふりがな	所属機関	所属(施設名)	都道府県	
1	27002	長谷川 秀和	はせがわ ひでかず	株式会社 北海道ケア・サポート	放課後等ディサービスらいとわーくす	北海道
2	27004	白土 英輝	しらと ひでき	社会福祉法人 実誠会	障害者支援施設 なるみ園	茨城
3	27005	井澤 朋子	いざわ ともこ	茨城県立 あすなろの郷	地域生活支援センター	茨城
4	27007	入野 和子	いりの かずこ	NPO法人だいち	ライフステーション樹林	茨城
5	27008	吉田 美恵	よしだ みえ	有限会社 友遊舎(就労支援事業所)		茨城
6	27010	大内 朝陽	おおうち あさひ	社会福祉法人 茨城補成会	涸沼学園集まれガッツ村	茨城
7	27011	岩井 雄希	いわい ゆうき	社会福祉法人 美しの森	障害者支援施設 虹の里	茨城
8	27012	北澤 貴子	きたざわ たかこ	茨城県筑西市立養蚕小学校		茨城
9	27017	沖田 健	おきた けん	社会福祉法人 けやきの郷	グループホーム 潮寮	埼玉
10	27018	釜石 昂洋	かまいしたかひろ	社会福祉法人 敬心福祉会	浦安市障がい者福祉センター	千葉
11	27019	渡部 聡	わたなべさとし	社会福祉法人 菜の花会	しもふさ学園	千葉
12	27020	鶴沢 敦史	うざわ あつし	社会福祉法人 菜の花会	アーアンドディだいえい	千葉
13	27024	羽柴 優美	はしば ゆみ	中野区立療育センター	アポロ園	東京
14	27025	本多 公恵	ほんだ きみえ	社会福祉法人 滝乃川学園	地域支援部	東京

15	27026	西 文子	にし ふみこ	社会福祉法人 同愛会	地域相談支援センター にじ	神奈川
16	27030	武藤 みや子	むとう みやこ	社会福祉法人 同愛会	地域相談支援センター にじ	神奈川
17	27031	小沼 利記	おぬまとしき	社会福祉法人 育桜福祉会	障害者支援施設 桜の風	神奈川
18	27032	木立 伸也	きだち しんや	富山県発達障害者支援センターあおぞら	富山県高志通園センター	富山
19	27033	般若 敏雄	はんによ としお	社会福祉法人 めひの野園		富山
20	27034	速見 雅子	はやみ まさこ	障害者支援施設 野積園		富山
21	27035	中野 周一	なかの しゅういち	社会福祉法人 溪明会	障害者支援施設 花椿きらめき	富山
22	27037	大滝 健一	おおたき けんいち	社会福祉法人 林檎の里	自閉症支援施設 あおぞら	長野
23	27038	武山 弥生	たけやま やよい	発達障害児・者及び家族支援の会	シーズ	長野
24	27040	石原 由美	いはら ゆみ	岐阜県発達障害者支援センター	のぞみ	岐阜
25	27041	濱井 君弘	はまい きみひろ	社会福祉法人 あゆみ	支援センターあゆみ夢楽園	三重
26	27042	清水 孝幸	しみず たかゆき	社会福祉法人 檜の里	グループホーム あさけホーム	三重
27	27043	中村 信二	なかむら しんじ	社会福祉法人 松花苑	みずのき	京都
28	27044	大内 望	おおうち のぞみ	社会福祉法人 松花苑	みずのき	京都
29	27045	丸田 富美代	まるた ふみよ	社会福祉法人 南山城学園	障害者支援施設 翼	京都
30	27046	柴田 博史	しばた ひろふみ	大阪市立 田川小学校		大阪
31	27047	竹内 恒	たけうち ひさし	社会福祉法人 北摂杉の子会	萩の杜	大阪
32	27048	浦 大	うら だい	社会福祉法人 永寿の里	彩羽	大阪
33	27049	廣石 俊雄	ひろいし としお	社会福祉法人 阪神福祉事業団	ななくさ育成会	兵庫
34	27050	藤井 美紀子	ふじい みきこ	兵庫県社会福祉事業団	三木精愛園	兵庫
35	27051	尾崎 勇一	おざき ゆういち	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵庫
36	27052	坊垣 勝彦	ぼうがき かつひこ	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵庫
37	27053	柳谷 菜穂	やなぎたに なお	社会福祉法人 五倫会	姫路暁乃里	兵庫
38	27055	前川 由香	まえかわ ゆか	社会福祉法人 さつき福祉会	琴弾の丘	兵庫
39	27057	吉田 壽子	よしだ としこ	社会福祉法人 樫原ふれあいの里福祉会	樫原ふれあいの里	奈良
40	27059	青山 慎史	あおやましんじ	広島市発達障害者支援センター		広島
41	27060	小柳 拓也	こやなぎ たくや	社会福祉法人 蓬菜会	指定障害者支援施設 ゆうあい	山口
42	27061	林 祐樹	はやし ゆうき	医療法人 信和会	大牟田保養院	福岡
43	27063	武田 行美	たけだ ゆきみ	社会福祉法人 東ノ原会	桂木とくのみ園	福岡
44	27064	岡村 亜紀	おかむら あき	社会福祉法人 葦の家福祉会	障がい福祉サービス事業葦の家	福岡
45	27065	中山 孝一	なかやま こういち	社会福祉法人 ことの海会	デイサービスふわり	長崎
46	27066	永野 陽介	ながの ようすけ	社会福祉法人 ことの海会	児童発達支援センターふわり久原	長崎
47	27068	平田 幸子	ひらた さちこ	社会福祉法人 蓮華園	千草野学園	長崎
48	27070	福山 千熊	ふくやま ちぐま	社会福祉法人 愛育学園	福祉型障害児入所施設 愛育学園	熊本
49	27071	松本 慎太郎	まつもと しんたろう	社会福祉法人 三気の里	障がい者支援施設 三気の里	熊本
50	27078	定平 佳子	さだひら よしこ	NPO法人 みんなの広場とんとん	こども発達支援センターもも	大分
51	27079	丹生 朱美	にゅう あけみ	社会福祉法人 萌葱の郷	どんこの里いぬかい	大分
52	27080	佐藤 任孝	さとう ひでたか	社会福祉法人 萌葱の郷	大分県発達障がい者支援センターECOAL	大分
53	27081	樋之口 貴弘	てのくち たかひろ	社会福祉法人 八重山会	ときわの家	鹿児島
54	27085	西田 美千代	にしだ みちよ	医療法人 親貴会	児童発達支援センター てんがらん	鹿児島

H28年度 スーパーバイザー養成研修 修了者(H30年11月1日現在)

受講者 No	名 前	ふりがな	所属機関	所属(施設名)	都道府県	
1	28001	鎌田 純子	かまだ じゅんこ	合同会社 おうる		北海道
2	28002	北原 裕之	きたはら ひろゆき	株式会社 北海道ケア・サポート	生活介護事業所 らいと西	北海道
3	28003	木村 三千代	きむら みちよ	八戸市子ども支援センター		青森
4	28004	斎藤 憲樹	さいとう のりき	社会福祉法人 七峰会	障害者支援施設 拓光園	青森
5	28005	永山 京介	ながやま けいすけ	社会福祉法人 いわき福音協会	はまなす荘	福島
6	28006	高橋 幸子	たかはし さちこ	社会福祉法人 福音会	宇津峰十字の里	福島
7	28012	松島 幹雄	まつしま みきお	社会福祉法人 征峯会	ピアしらとり	茨城
8	28013	高橋 通泰	たかはし みちやす	社会福祉法人 けやきの郷	ワークセンターけやき	埼玉
9	28014	柏崎 純子	かしわざき じゅんこ	社会福祉法人 菜の花会	しもふさ学園	千葉
10	28015	山形 洋子	やまがた ようこ	社会福祉法人 菜の花会	しもふさ学園	千葉
11	28016	加賀美 裕	かがみ ゆう	社会福祉法人 大久保学園	障害者支援施設 大久保学園	千葉
12	28017	徳永 和子	とくなが かずこ	社会福祉法人 まつど育成会	障害者支援施設 まつぼっくり	千葉
13	28019	西田 智子	にしだ ともこ	社会福祉法人 萌の会	障害者支援施設 愛幸	東京
14	28022	伊藤 洋介	いとう ようすけ	社会福祉法人 正夢の会	昭島生活実習所	東京
15	28025	高崎 誠	たかさき まこと	社会福祉法人 滝乃川学園	地域支援部 れすばいとセンター	東京
16	28029	木下 泰秀	きのした やすひで	株式会社 ソーシャル・スパイス・カンパニー	Bi-z Labo 多摩	神奈川
17	28030	吉田 順彦	よしだ のぶひこ	公益財団法人 川崎市身体障害者協会	中部身体障害者福祉会館	神奈川
18	28032	滝田 信子	たきた のぶこ	一般社団法人 SOWET	多機能型事業所 みんなの広場	神奈川
19	28033	岩田 和可	いわた かずか	社会福祉法人 セイワ	あさお基幹相談支援センター	神奈川
20	28035	石黒 裕二	いしぐろ ゆうじ	社会福祉法人 三篠会	障がい者支援施設 みずさわ	神奈川
21	28037	増子 裕美	ましこ ゆみ	特定非営利活動法人 だるまの会		神奈川
22	28038	桑原 美由紀	くわはら みゆき	特定非営利活動法人 てくてく	相談支援事業所 てくてく	長野
23	28040	辻田 剛己	つじた ごうき	社会福祉法人 ふじの郷	さつき学園	静岡
24	28041	園田 裕介	そのだ ゆうすけ	特定非営利活動法人 ぐらし応援ネットワーク	就労移行支援事業所 ご縁	愛知
25	28046	京 美保	きょう みほ	社会福祉法人 愛燦会	障がい者センターあいさんハウス	愛知
26	28047	伊藤 克哉	いとう かつや	社会福祉法人 新潟太陽福祉会	共同生活援助事業 はまゆり	新潟
27	28048	山橋 真人	やまはし まこと	社会福祉法人 めひの野園	ウォーム・ワークやぶなみ	富山
28	28051	武井 安津子	たけい あつこ	社会医療法人 愛仁会	高槻病院	大阪
29	28053	松本 幸子	まつもと さちこ	学校法人 近田幼稚園	認定こども園 近田幼稚園	兵庫
30	28055	藤井 みき	ふじい みき	社会福祉法人 三木市社会福祉協議会	三木市立障害者総合支援センターはばたきの丘	兵庫
31	28057	松川 悟士	まつかわ さとし	社会福祉法人 博由社	加古川市立つじ園	兵庫
32	28058	常深 章子	つねみ しょうこ	社会福祉法人 まほろば	三木光司園	兵庫
33	28059	清水 俊美	しみず としみ	特定非営利活動法人 みんなのいえ		兵庫
34	28060	阪田 直樹	さかた なおき	社会福祉法人 パレット会	障害者支援施設 パレットたつの	兵庫
35	28063	杉本 秀幸	すぎもと ひでゆき	社会福祉法人 笠岡市社会福祉事業会	障害者支援施設 笠岡学園	岡山
36	28064	小椋 由紀恵	おぐら ゆきえ	社会福祉法人 勝明福祉会	障がい福祉サービス事業所 きずな	岡山
37	28066	坪田 里美	つぼた さとみ	社会福祉法人 津山社会福祉事業会	ラルーチェめぐみ	岡山
38	28067	西村 友宏	にしむら ともひろ	社会福祉法人 蓬萊会	ソイルセンター	山口

39	28070	藤本 健太郎	ふじもと けんたろう	社会福祉法人 十字会	障害者支援施設 博愛ヴィレッジ	徳島
40	28071	渡邊 裕介	わたなべ ゆうすけ	社会福祉法人 豊徳会	障害者支援施設 みろく園	福岡
41	28073	岡崎 玲子	おかざき れいこ	社会福祉法人 蓮華園	千草野学園	長崎
42	28074	久保 勝喜	くぼ かつき	社会福祉法人 ことの海会	児童発達支援ふわり本町	長崎
43	28077	河野 拓	こうの たく	幼保連携型認定こども園	緑が丘こども園	大分
44	28079	田淵 利枝	たぶち としえ	大分大学教育学部附属幼稚園		大分
45	28080	山田 千愛	やまだ ちあき	社会福祉法人 順徳会	キッズアカデミー保育園	大分
46	28082	大津 晶子	おおつ しょうこ	社会福祉法人 とんとん	こども発達支援教室すもも	大分
47	28083	田中 秀征	たなか ひでゆき	社会福祉法人 萌葱の郷	大分県発達障がい者支援センター ECOAL	大分
48	28084	小野 淳一郎	おの じゅんいちろう	社会福祉法人 萌葱の郷	障害者支援施設 めぶき園	大分
49	28086	田元 清香	たもと さやか	医療法人 親貴会	児童発達支援センターてんがらかん	鹿児島

H29年度 スーパーバイザー養成研修 修了者(H30年11月1日現在)

受講者 No	名前	ふりがな	所属機関	所属(施設名)	都道府県	
1	29003	森 雅樹	もり まさき	社会福祉法人 北海道光生会	ライフサポート美唄	北海道
2	29004	大西 由紀	おおにし ゆき	特定非営利活動法人 そよかぜ		青森
3	29005	佐々木 直通	ささき なおみち	障害者支援施設 拓光園	放課後等デイサービスセンターばすてる	青森
4	29006	藤森 健吾	ふじもり けんご	社会福祉法人 七峰会	エイブル	青森
5	29008	野崎 浩徳	のざき ひろのり	社会福祉法人 優樹福祉会	地域生活サポートセンターあゆり	福島
6	29010	永田 亜有美	ながた あゆみ	社会福祉法人 身障者ポニーの会	ポニーの家 多機能	茨城
7	29014	神田 一起	かんだ かずき		市川児童相談所	千葉
8	29015	田辺 賢一	たなべ けんいち	社会福祉法人 香取学園	龍ヶ谷寮	千葉
9	29017	中山 大悟	なかやま だいご	社会福祉法人 菜の花会	しもふさ学園	千葉
10	29018	名雪 圭祐	なゆき けいすけ	社会福祉法人 菜の花会	児童デイサービスセンターみにトマト	千葉
11	29019	木村 喜代美	きむら きよみ	社会福祉法人 アルムの森	ピッチーの丘	千葉
12	29021	松田 和章	まつだ かずあき	社会福祉法人 青葉会	WITH US 多機能型事業所	千葉
13	29022	小林 佑季子	こばやし ゆきこ	社会福祉法人 青葉会	WITH US グループホーム	千葉
14	29026	和田 雅彦	わだ まさひこ	特定非営利活動法人 繭	生活介護事業所 風	埼玉
15	29028	平口 雄也	ひらぐち ゆうや	社会福祉法人 あだちの里	希望の苑(入所)	東京
16	29039	岩澤 尚美	いわざわ なおみ	社会福祉法人 愛知県厚生事業団	愛厚半田の里	愛知
17	29041	酒井 絵美	さかい えみ	桶狭間病院藤田こころケアセンター		愛知
18	29042	高木 理恵子	たかぎ りえこ	岐阜県立本巣松陽高等学校		岐阜
19	29043	名和 亜由美	なわ あゆみ	株式会社Notoカレッジ		岐阜
20	29045	加藤 かおり	かとう かおり	こども発達支援 ぎふの森学園		岐阜
21	29049	藤井 麗子	ふじい れいこ	社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会	サテライト・オフィス平野	大阪
22	29050	長井 直美	ながい なおみ	株式会社 きると		大阪
23	29052	玉田 奈緒美	たまだ なおみ	社会福祉法人 夢と虹の会	生活介護事業所 虹	兵庫
24	29054	園田 彩佳	そのだ あやか	社会福祉法人 ヨハネ会	神戸市立自立センターたるみ	兵庫
25	29055	松田 訓明	まつだ くにあき	社会福祉法人 姫路睦福祉会	障害福祉サービス事業所 真砂園	兵庫
26	29056	辻本 和哉	つじもと かずや	社会福祉法人 博由社	加古川市立 つつじ園	兵庫
27	29057	田村 理一郎	たむら りいちろう	社会福祉法人 姫路睦福祉会	障害福祉サービス事業所 朝日ノ里	兵庫

28	29058	井上 雅博	いのうえ まさひろ	社会福祉法人 姫路学園	障害者支援施設 姫路学園	兵庫
29	29063	磯邊 拓也	いそべ たくや	社会福祉法人 敬仁会	障がい者支援施設 敬仁会館	鳥取
30	29067	小泊 美和	こどまり みわ	NPO法人 シャイン・サポート	おひさまはうす吉塚	福岡
31	29070	薄田 良二	すすきだ りょうじ	社会福祉法人 コスモス会		長崎
32	29071	吉丸 さとみ	よしまる さとみ	社会福祉法人 ことの海会	児童発達支援センターふわり久原	長崎
33	29072	長岡 和香奈	ながおか わかな	社会福祉法人 ことの海会	ぶるーむ	長崎
34	29076	松枝 由香	まつえ ゆか	Npo法人 Laeta	宇城地域療育センター	熊本
35	29077	上田 華奈子	うえだ かなこ	Npo法人 Laeta	宇城地域療育センター	熊本
36	29079	後藤 伸二	ごとう しんじ	社会福祉法人 萌葱の郷	発達障がい者支援センター ECOAL	大分
37	29081	日名子 理恵	ひなご りえ	社会福祉法人 みずほ厚生センター	こどもデイサービス あらかし	大分
38	29082	本田 博之	ほんだ ひろゆき	社会福祉法人 紫雲会	サポートセンターサライ	大分
39	29083	安藤 崇裕	あんどう たかひろ	社会福祉法人 紫雲会	障害者支援施設 本城苑	大分
40	29084	仲野 歳	なかの さい	社会福祉法人 博愛会	博愛会地域総合支援センター	大分
41	29085	武 和宏	たけ かずひろ	鹿児島生協病院		鹿児島
42	29087	渡邊 浩伸	わたなべ ひろのぶ	国立障害者リハビリテーションセンター	自立支援局 秩父学園	埼玉

〈 ご 挨拶 〉

「日本財団助成 平成 29 年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修」にご参加いただきました皆様、ご支援、ご協力いただきました団体、関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修を通して、至らない点が多々あったかと思いますが、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

尚、事業実施報告書内の画像や文章、情報等を無断で複製・転載・流用・譲渡・複写等することとはご遠慮ください。

今後も、発達障害支援スーパーバイザー養成研修に参加してよかったとっていただけるように尽力していきたいと考えております。何かお気づきの点がございましたら、お気兼ねなくお申し付けください。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修事務局

原田 竜二

日本財団助成 平成 29 年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修

事業実施報告書

発行 平成30年 11 月1日

発行者 全日本自閉症支援者協会

会長 松上 利男

URL <http://zenjisyakyo.com>

事務局 社会福祉法人 萌葱の郷

〒879-7306 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355番地 10

TEL 097-578-0818 FAX 097-578-0819